

---

# 新型コロナウイルス感染症罹患後症状 実態調査に関する報告

---

滋賀県健康医療福祉部  
感染症対策課

# 調査の概要について

## 1 目的

新型コロナウイルス感染症による罹患後症状(後遺症)の実態を把握し、今後の相談・診療体制について検討を行う。

## 2 調査対象

県内574医療機関

(一般診療所:529機関、病院:45機関)

## 3 調査期間

令和4年7月22日 ~ 令和4年9月30日

## 4 調査方法

電子メール、郵送またはFAXにより回答

## 5 回答

回答医療機関 227機関(193診療所、34病院)

症例報告 70人(オミクロン株流行以降(令和4年1月1日~5月31日)に陽性と診断された48名(19医療機関から報告)、  
デルタ株流行以前(令和3年12月31日まで)に陽性と診断された22名(9医療機関から報告)の合計)

## 6 定義

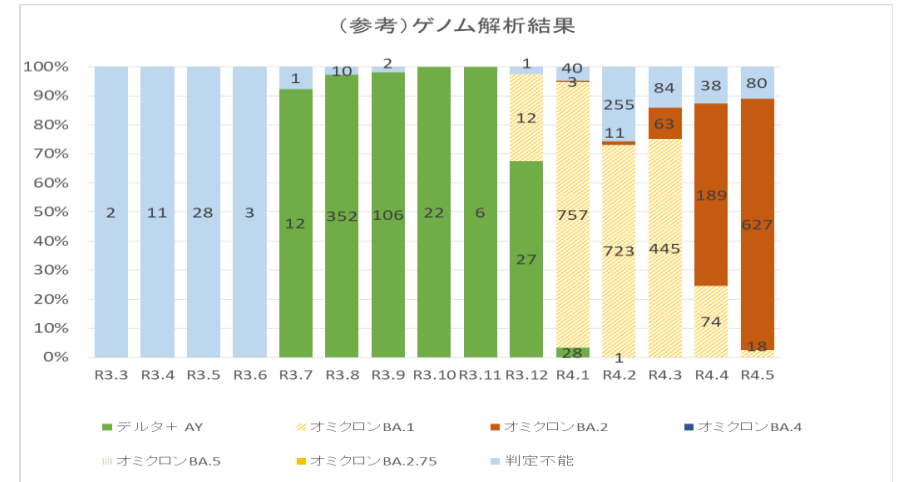
本調査における罹患後症状の定義は、次の条件をいずれも満たすものとする。

- ・新型コロナウイルス感染症に罹患した人にみられ、他の疾患として説明がつかない
- ・新型コロナウイルス感染症の診断から1か月以内にみられた症状である
- ・症状が少なくとも2か月以上継続する

【参考】厚生労働省 新型コロナウイルス感染症診療の手引き(別冊 罹患後症状のマネジメント)

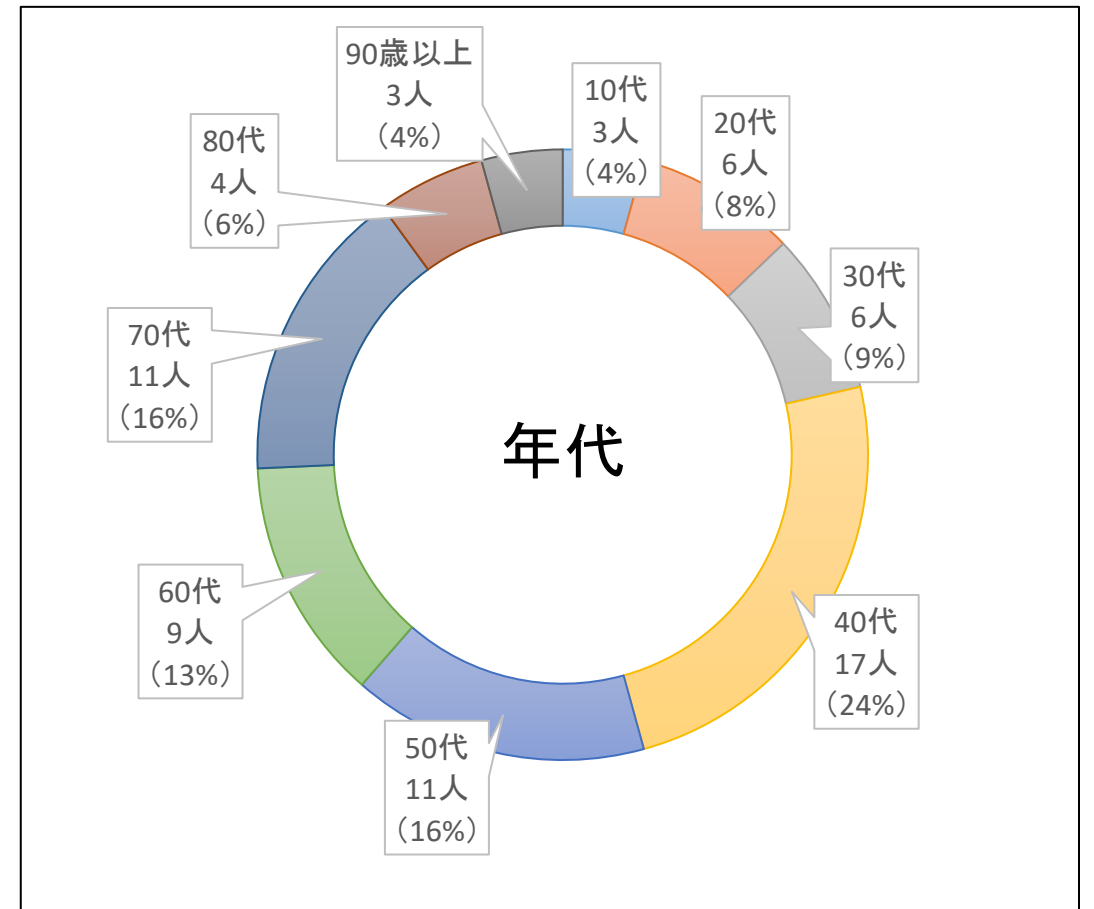
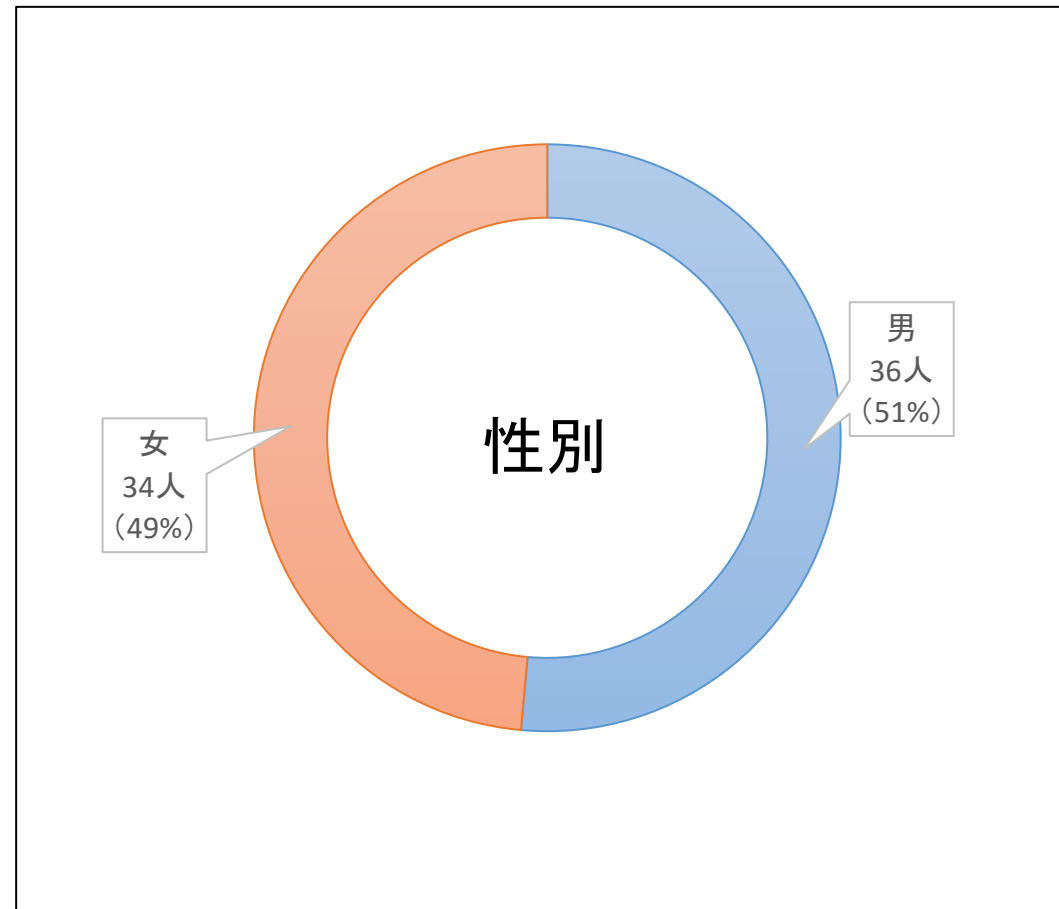
## 7 その他

本調査は、回答のあった医療機関の症例をまとめたものであり、本県の全ての症例を把握するものではない。



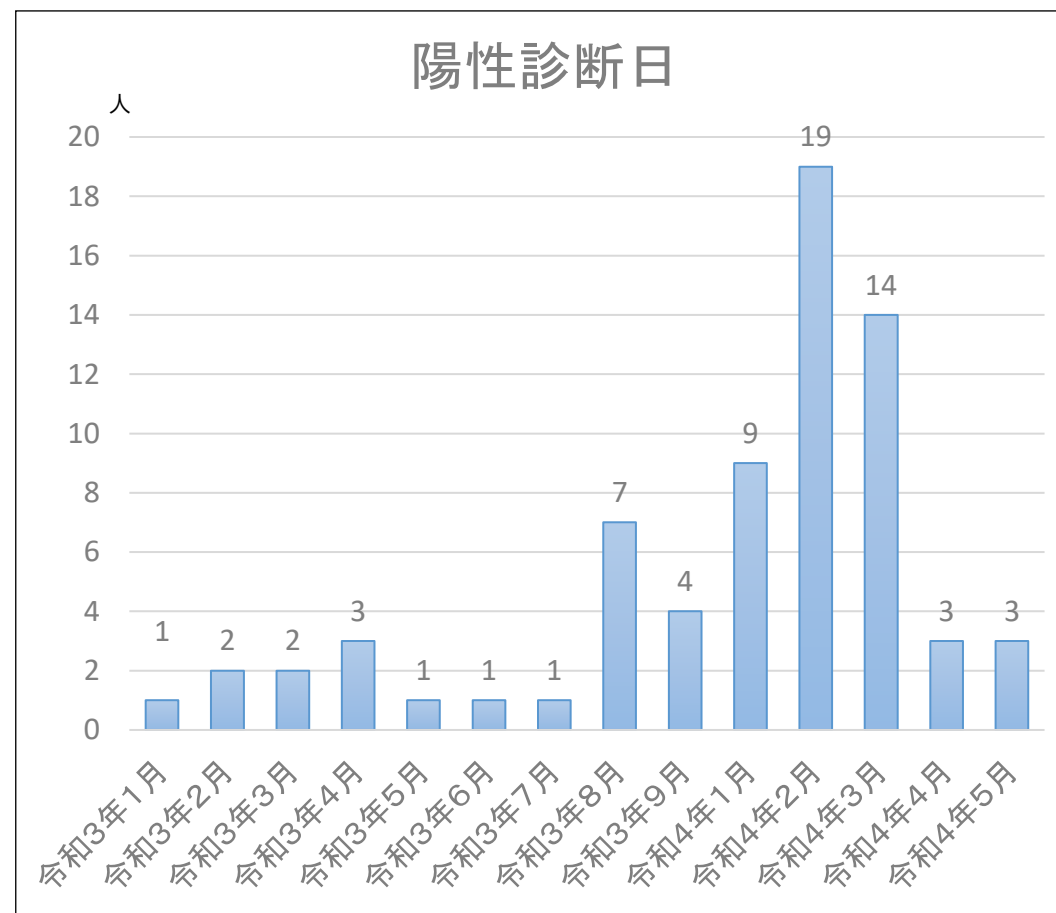
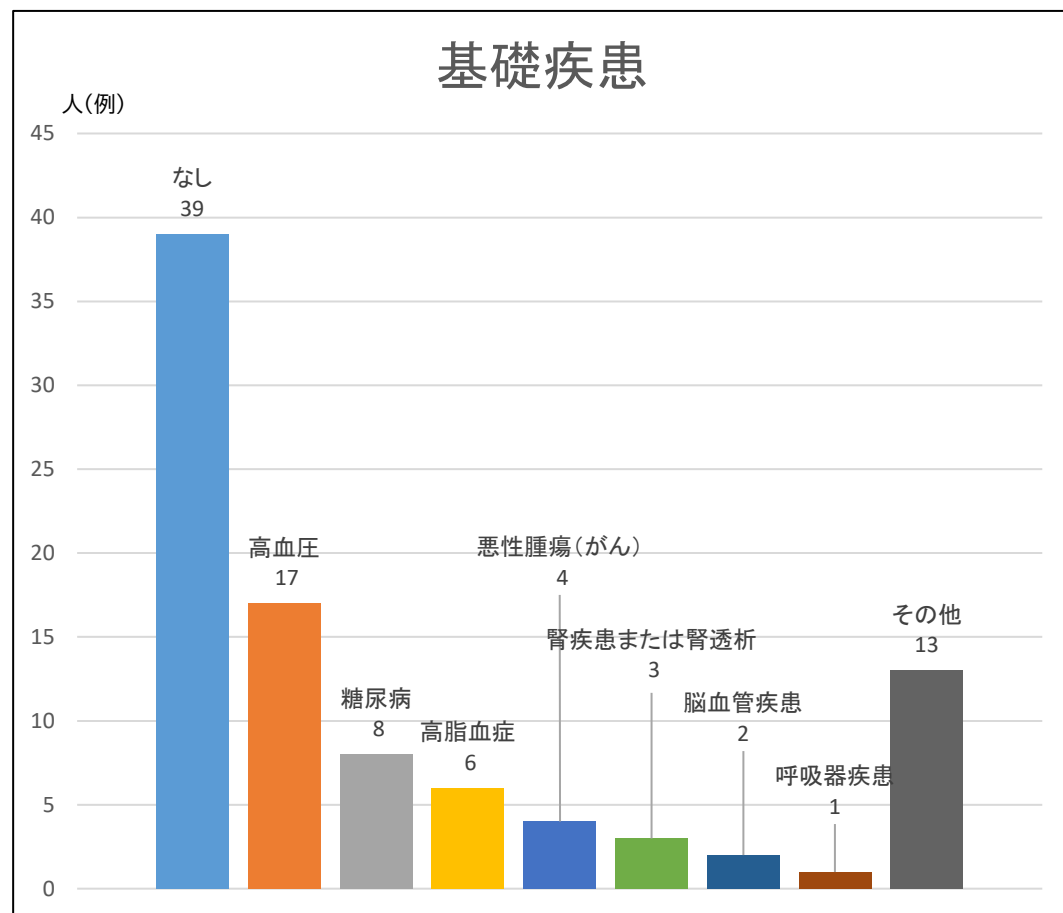
# 1 性別、年代について

- ・患者数は70人で、患者の性別に偏りは見られない。
- ・年代別では、40代が多く、また、20代から50代の現役世代が57%を占めている。



## 2 基礎疾患と新型コロナ診断年月日について

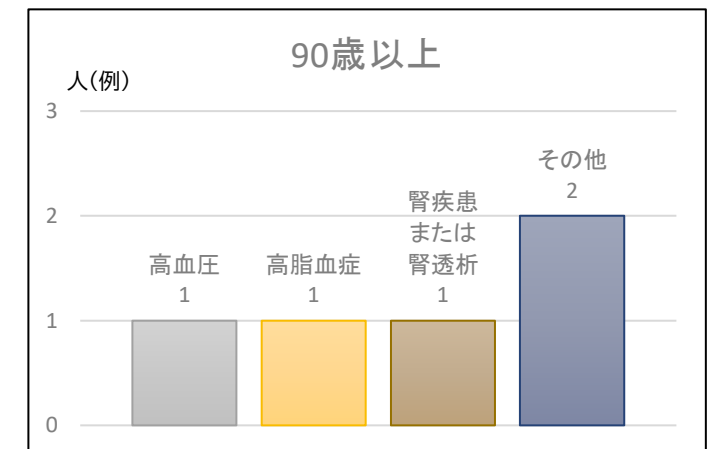
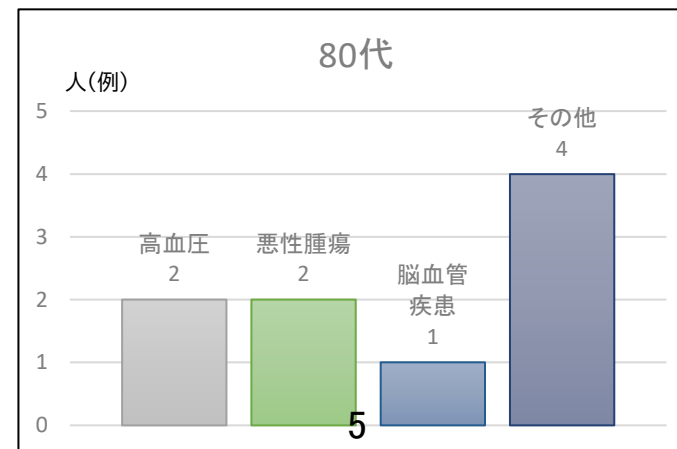
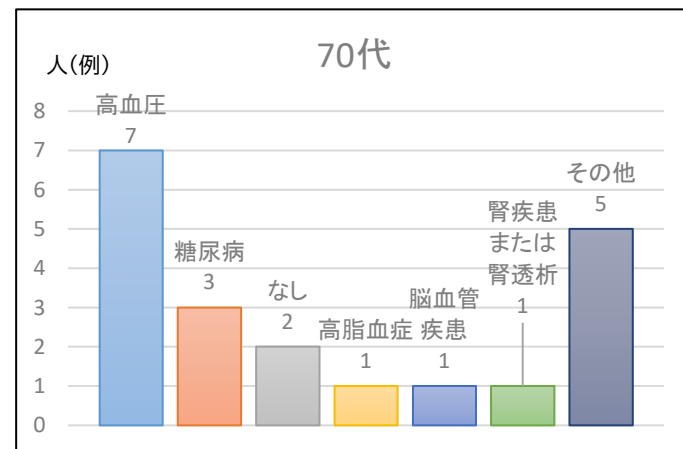
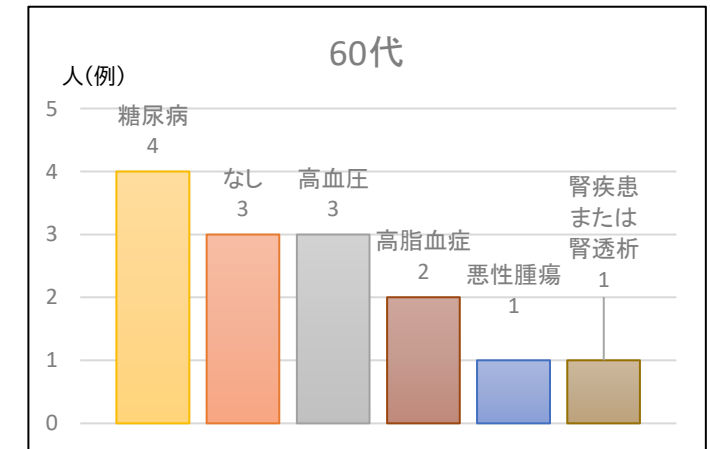
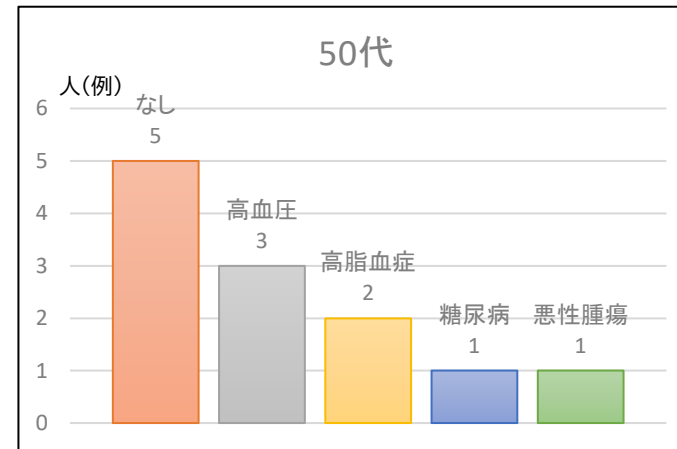
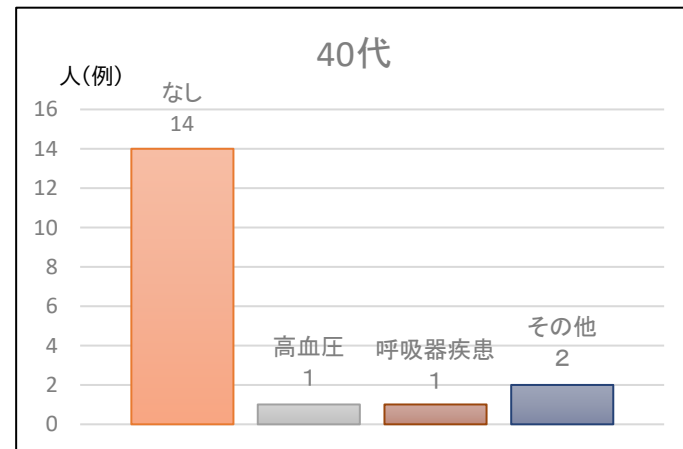
- ・基礎疾患を持たない患者が39人(56%)で最も多くなっている。次いで高血圧、糖尿病、高脂血症が多くなっている。「その他」では慢性心不全や脳梗塞、B型肝炎やアルツハイマー型認知症、パニック障害等があった。
- ・令和4年2月および3月に新型コロナ陽性と診断された方が33人(47%)を占めている。



※複数回答を含む計93例

## 2 基礎疾患と年代について

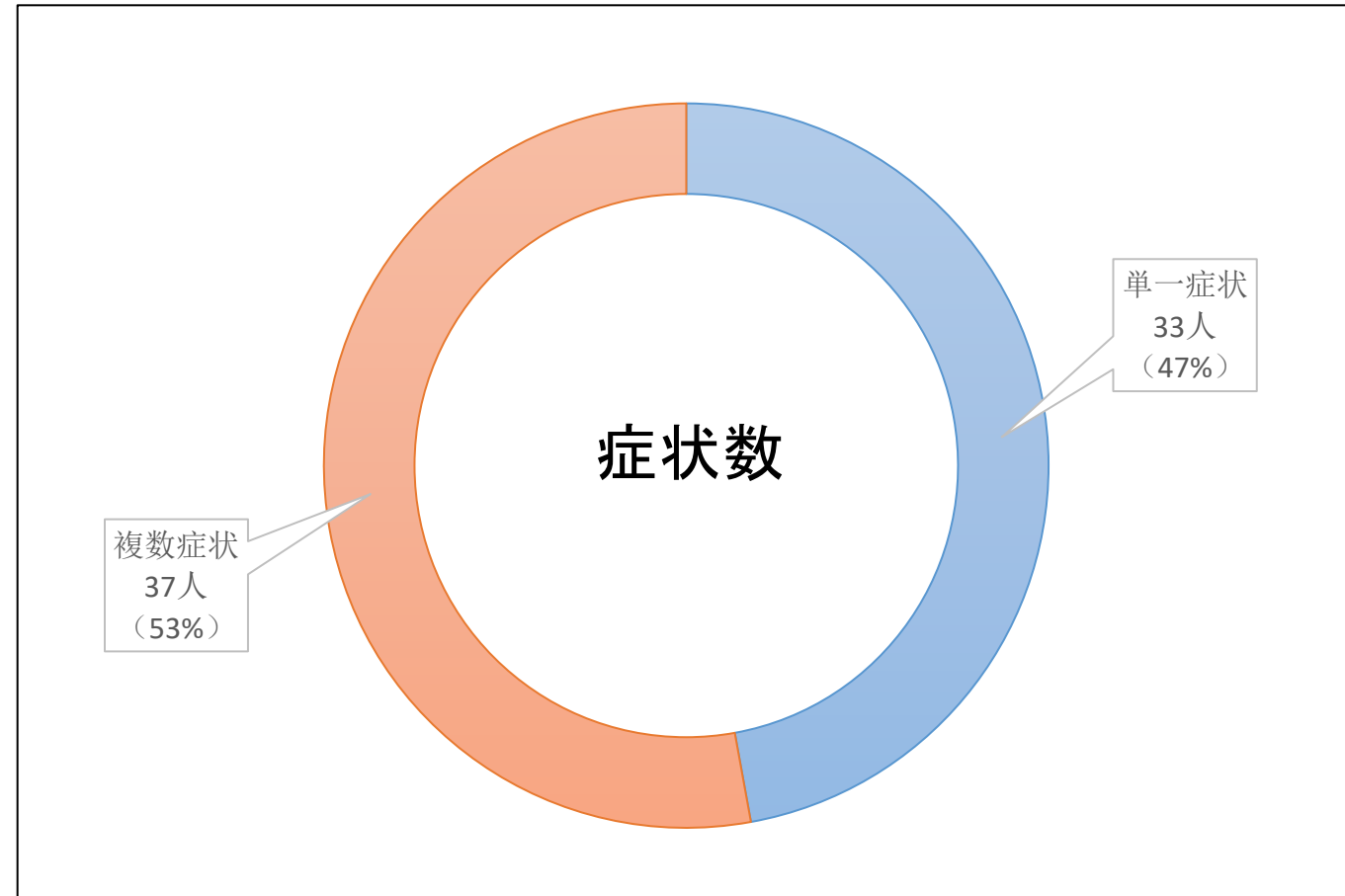
- ・10代(3人)、20代(6人)、30代(6人)の患者にはいずれも基礎疾患はなかった。
- ・40代においても14人には基礎疾患がない一方、50代以上では基礎疾患を持つ患者の割合が高くなっている。



### 3 罹患後症状について(1)

---

- 患者の症状は、単一症状の方が47%、複数症状の方が53%である。

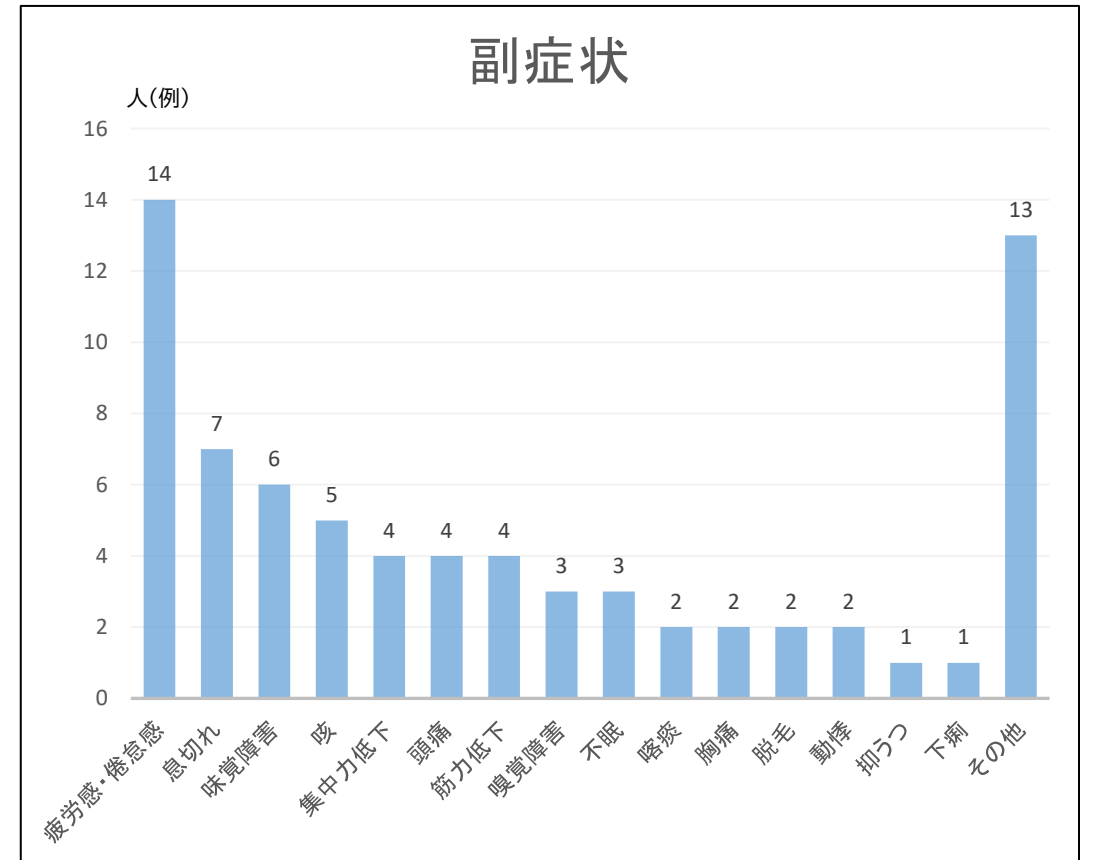
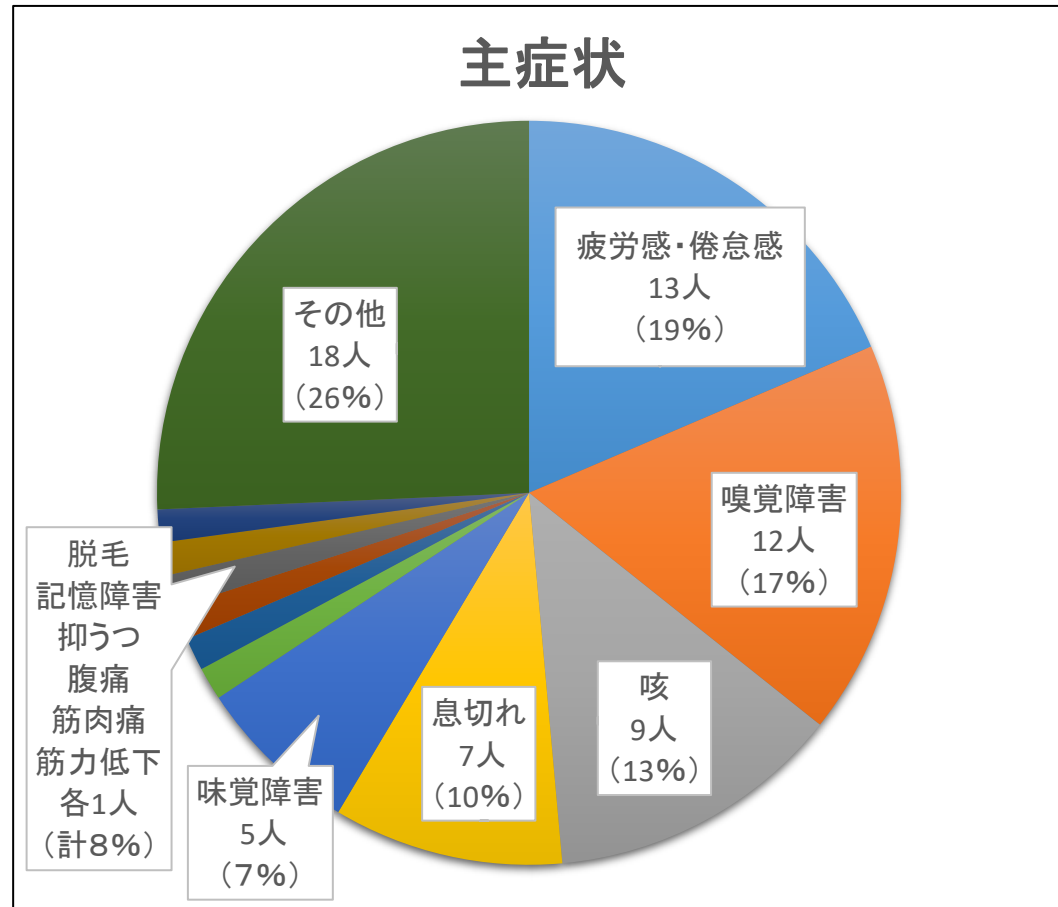


### 3 罹患後症状について(2)

・主症状では「その他」が最も多く、次いで疲労感・倦怠感や嗅覚障害が続いている。

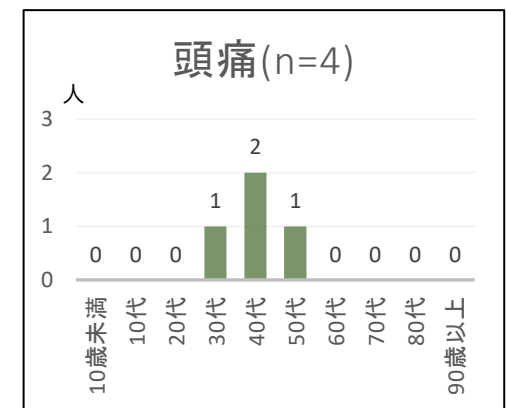
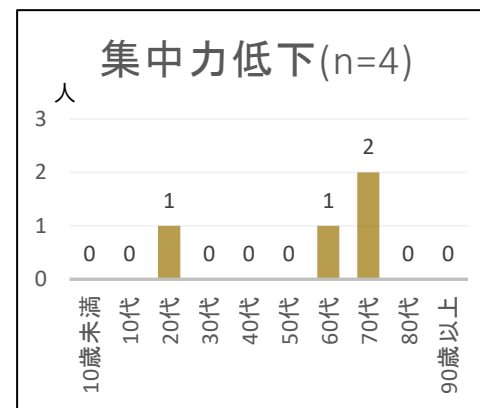
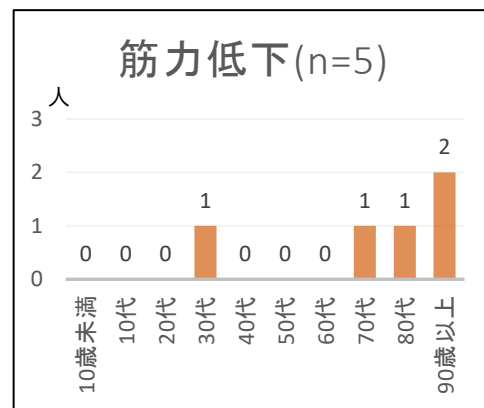
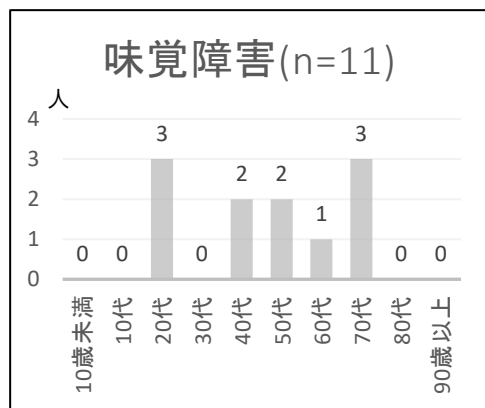
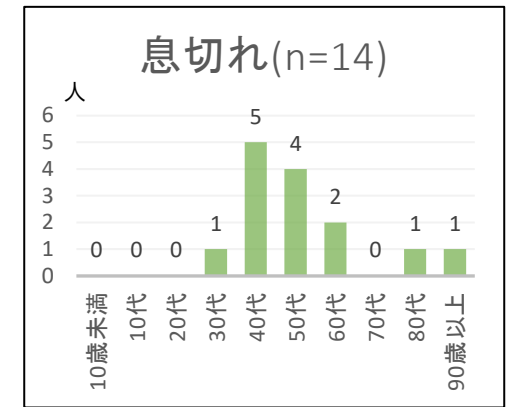
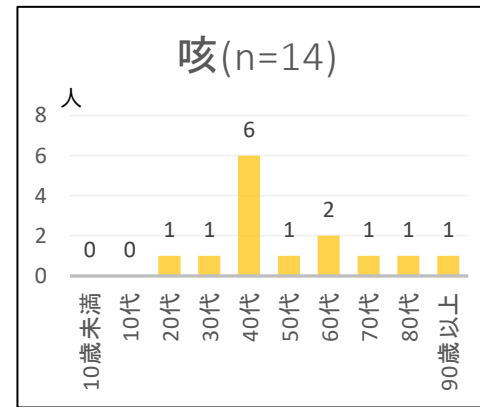
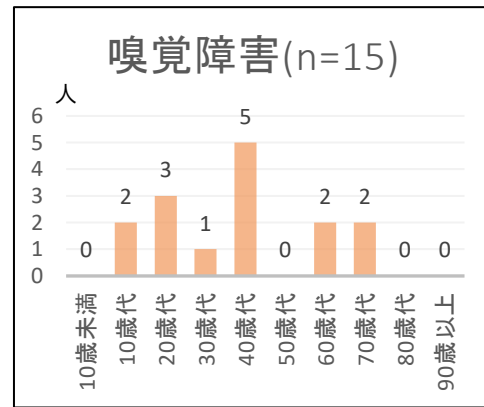
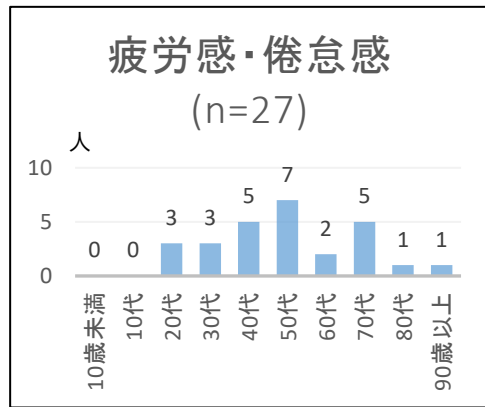
「その他」では摂食障害が最も多く、他にも嚥下障害や労作時呼吸困難、めまいや嘔声等の訴えがあった。

・副症状では疲労感・倦怠感と「その他」が突出して多く、主症状では見られない集中力低下や喀痰、動悸等の訴えがみられた。



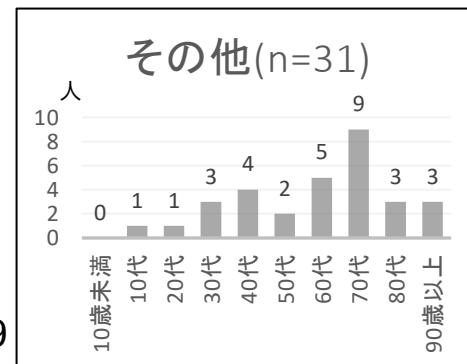
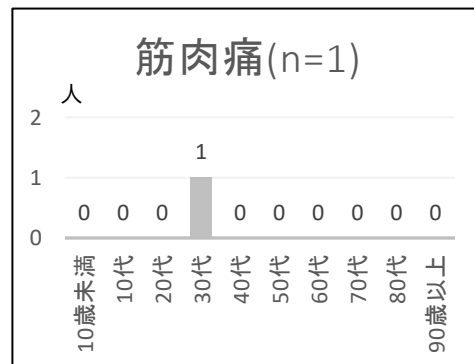
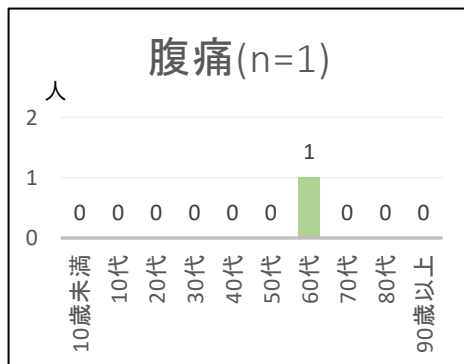
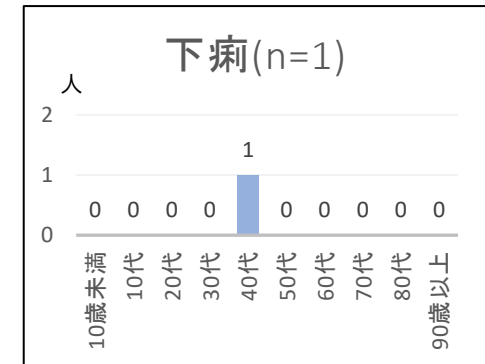
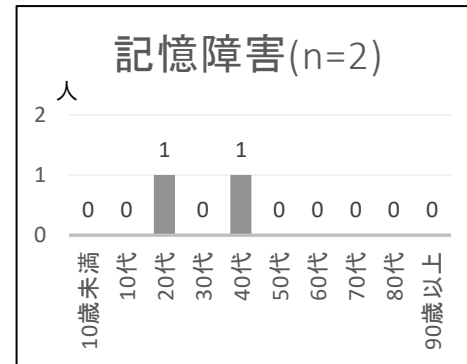
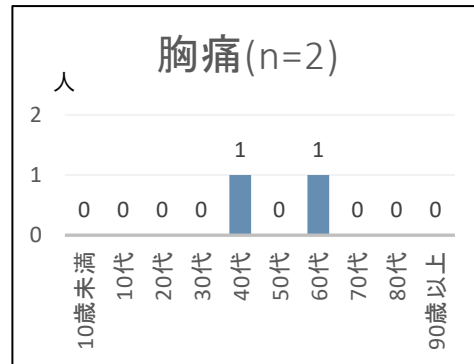
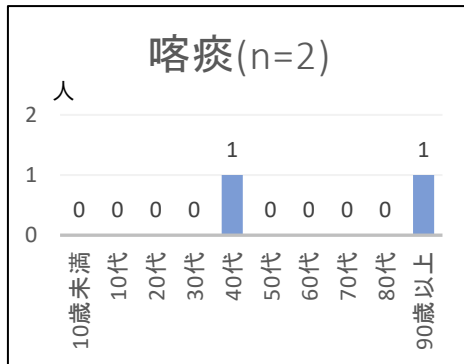
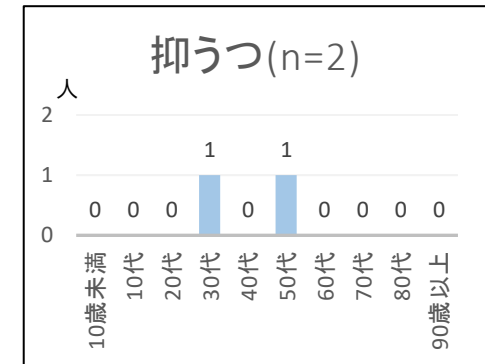
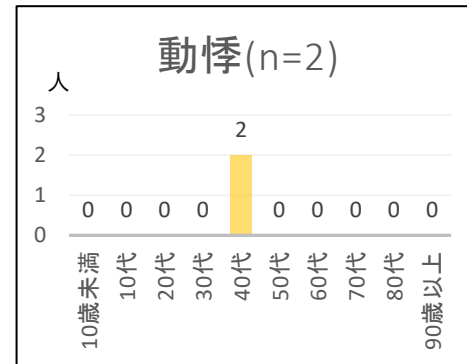
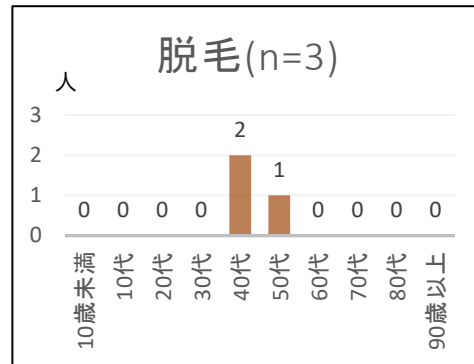
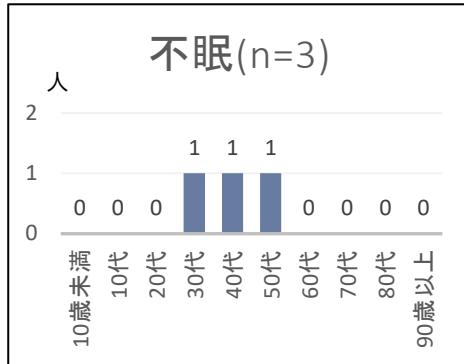
### 3 罹患後症状について(3)

・年代別に主症状+副症状を見ると、70人のうち27人(39%)が疲労感・倦怠感を訴えていた。また、疲労感・倦怠感や咳は各年代に幅広くみられる一方、嗅覚障害は40代までが11人(73%)、筋力低下は70代以上が4人(80%)を占め、年代による症状の偏りがみられる。



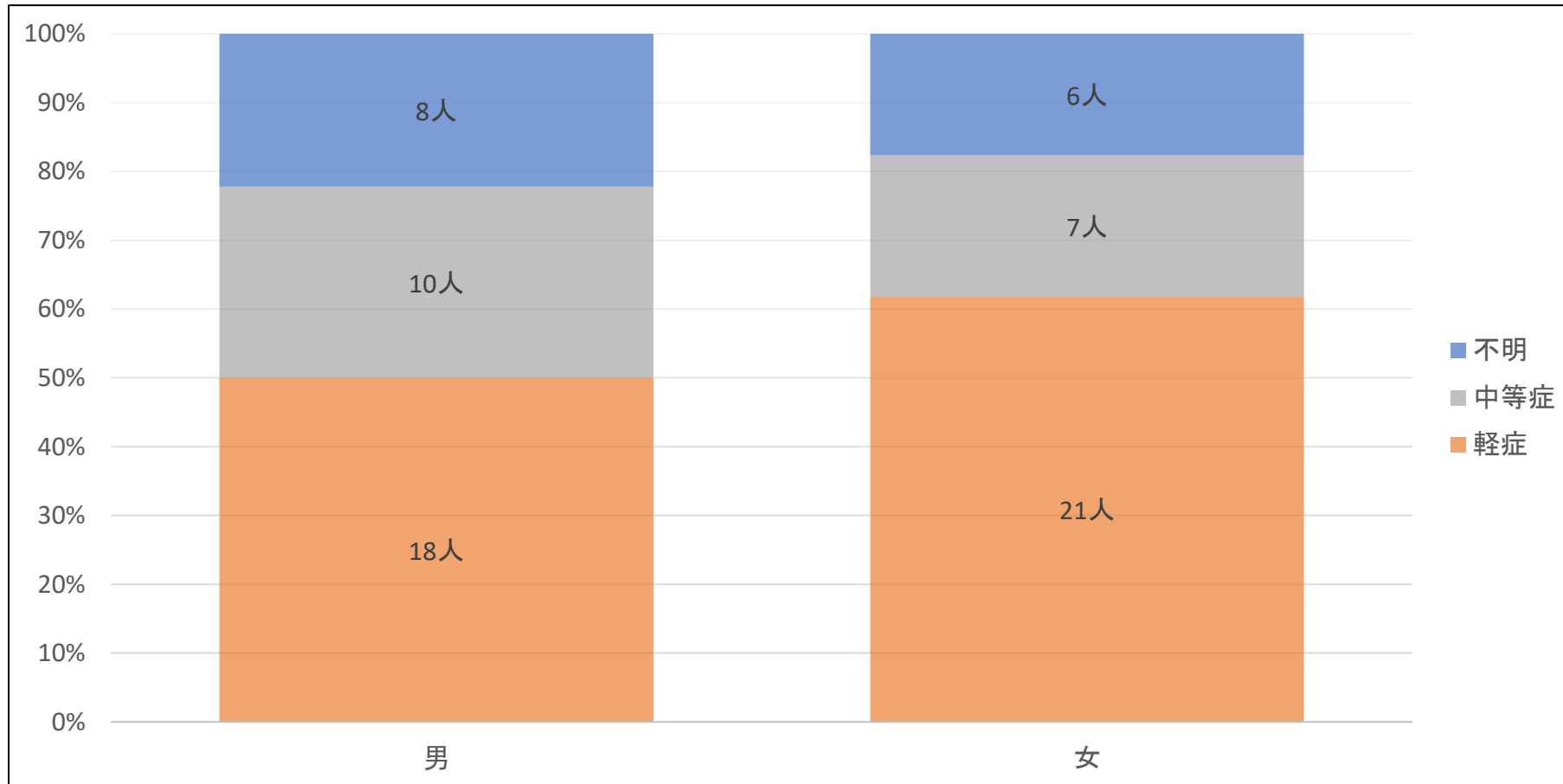


### 3 罹患後症状について(3)



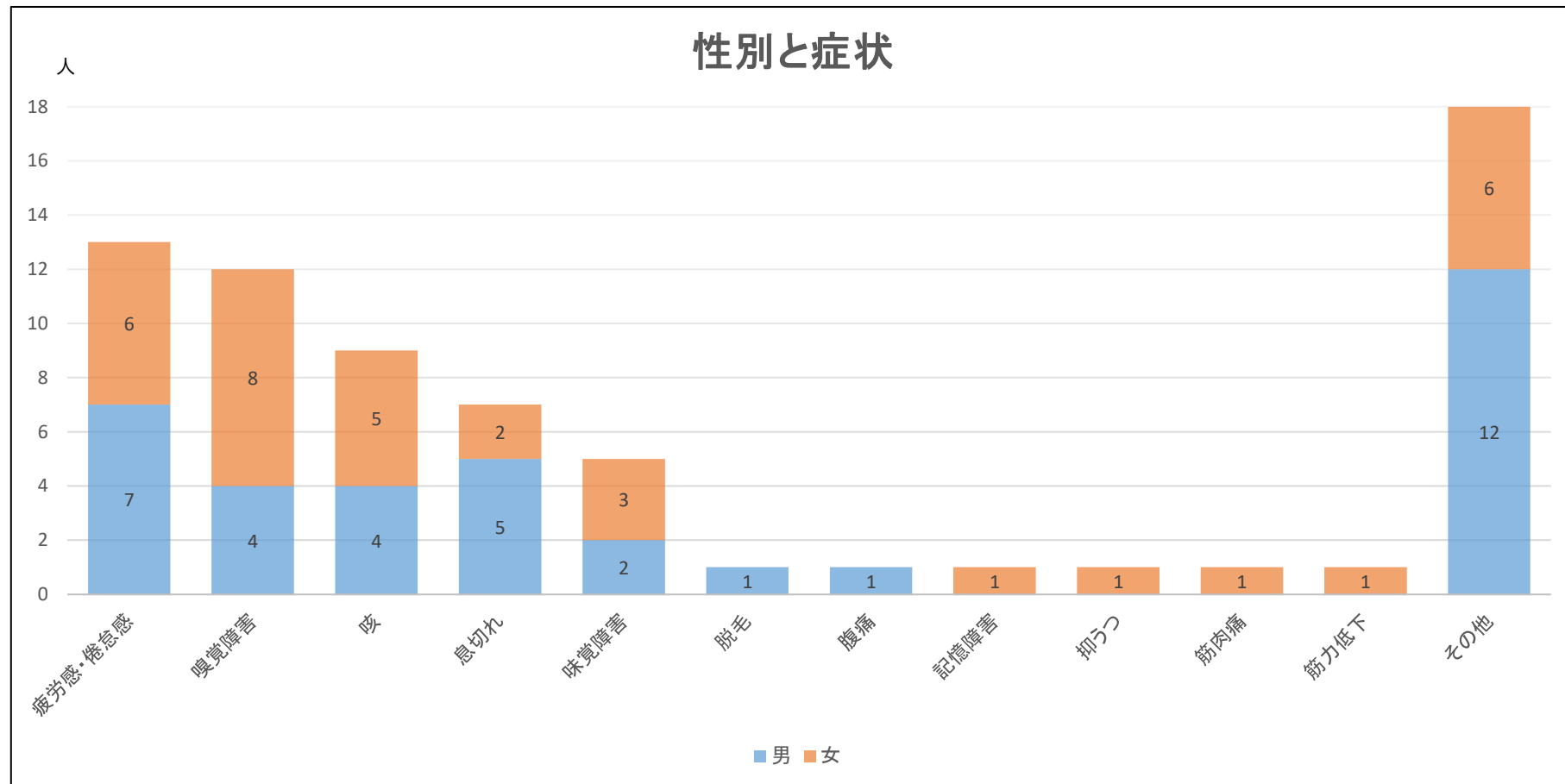
## 4 新型コロナ感染時の症状の程度について

・新型コロナ感染時症状の程度に関わらず罹患後症状が生じている。



## 5 性別による主症状について

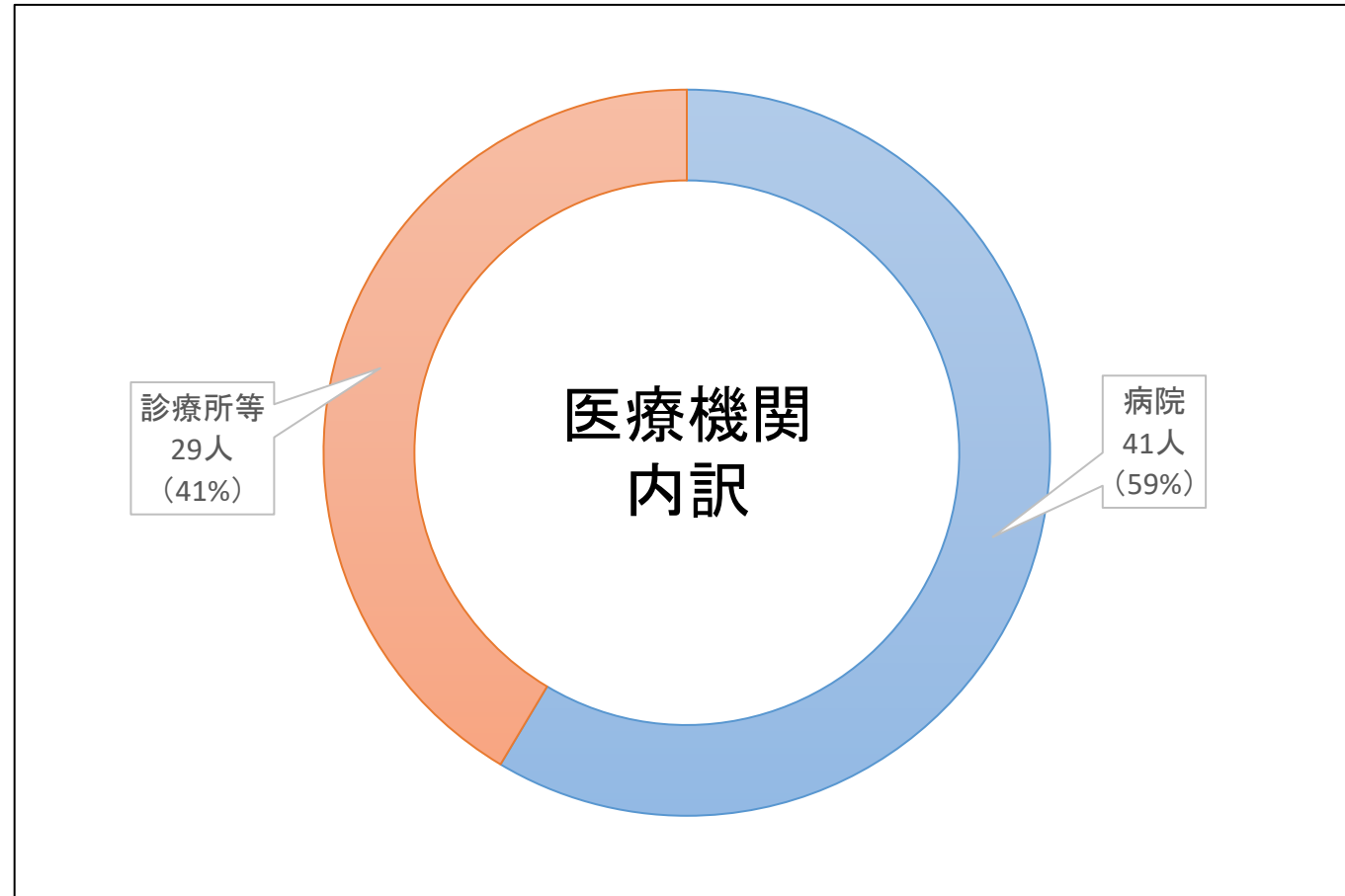
- ・嗅覚障害について女性が男性の2倍、息切れについて男性が女性の2.5倍多くなっている。
- ・脱毛、腹痛は男性に、記憶障害、抑うつ、筋肉痛、筋力低下は女性にのみみられる。



## 6 医療機関別の診療状況について

---

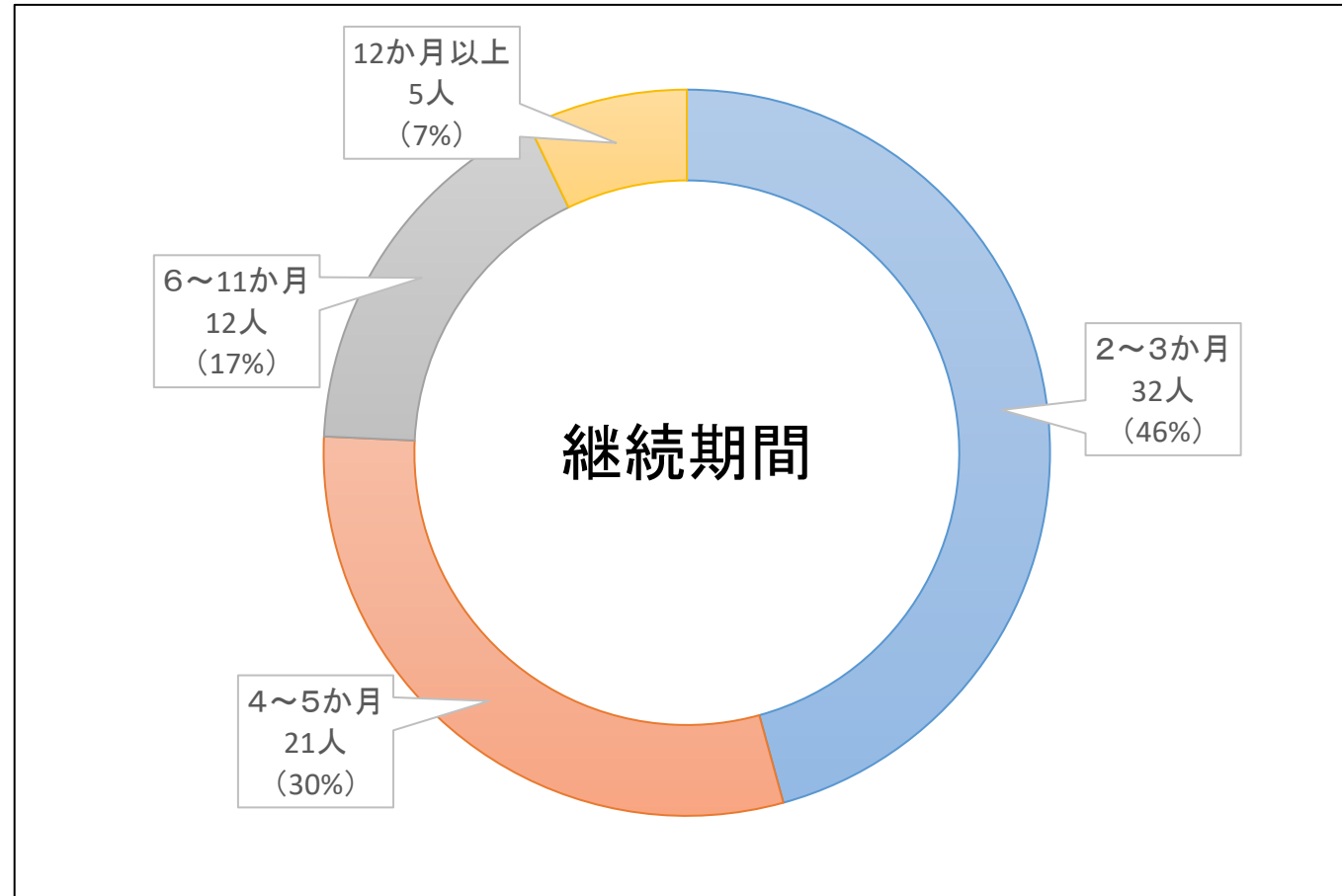
- 病院が59%の症例を、一般診療所が41%の症例を診療している。



## 7 罹患後症状の継続期間について(1)

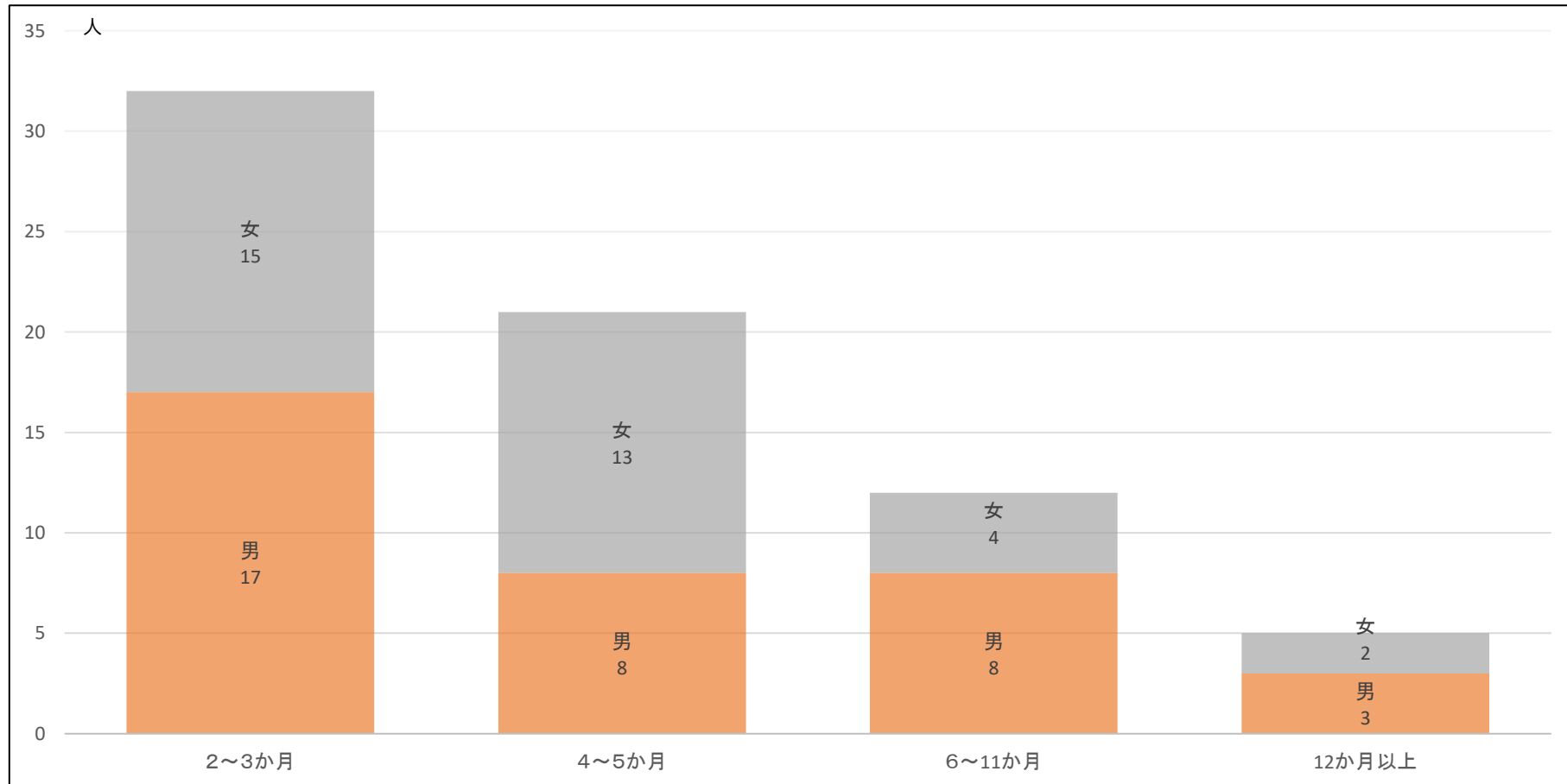
---

- 継続期間は3か月以内が46%となる一方で、6か月以上継続している方も24%いる。



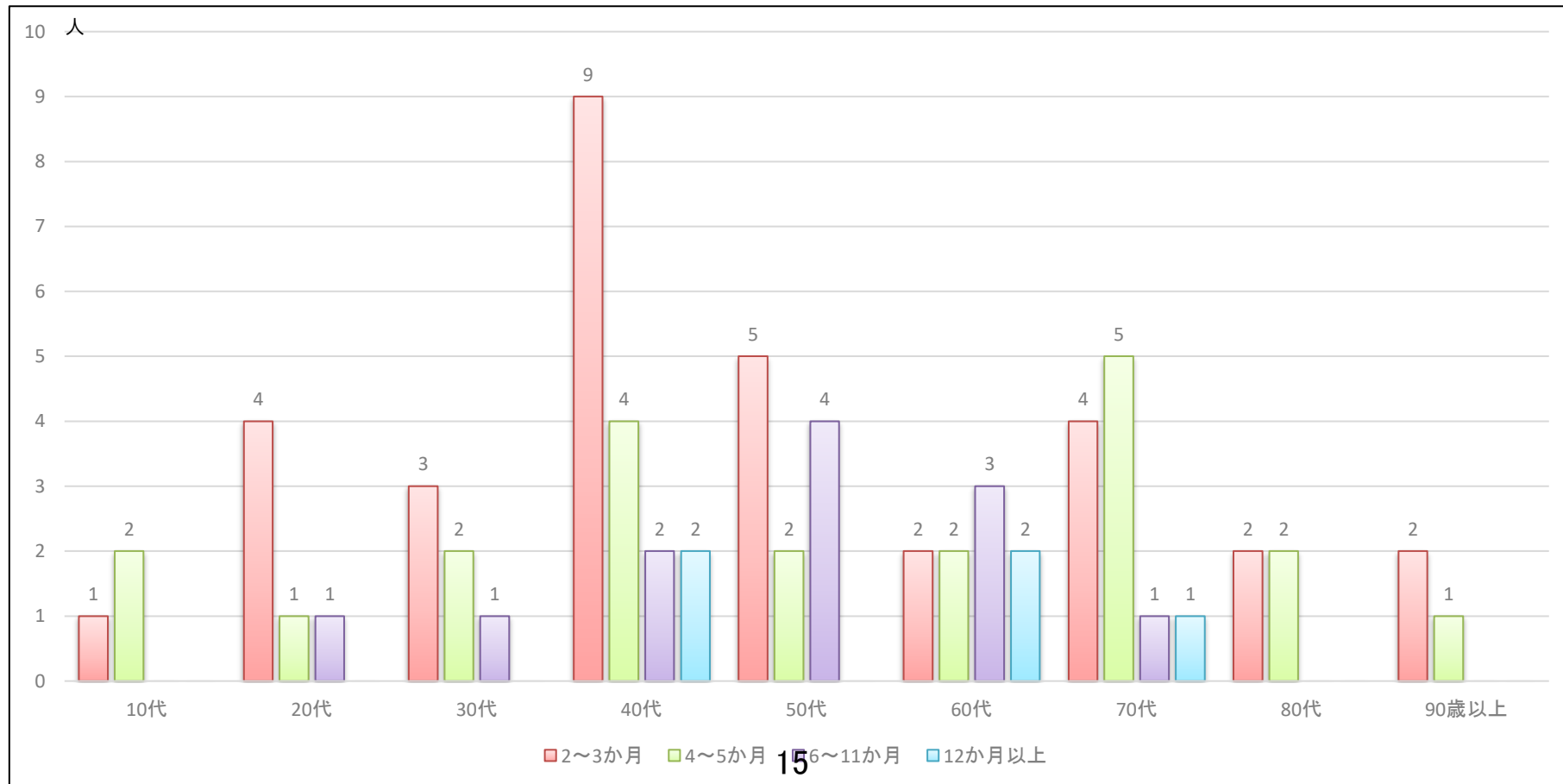
## 8 性別ごとの罹患後症状の継続期間について

- ・4～5か月では女性が男性に比べ約1.6倍多くなっている。
- ・6か月以上では男性が多く、6～11か月では男性が女性の2倍となっている。



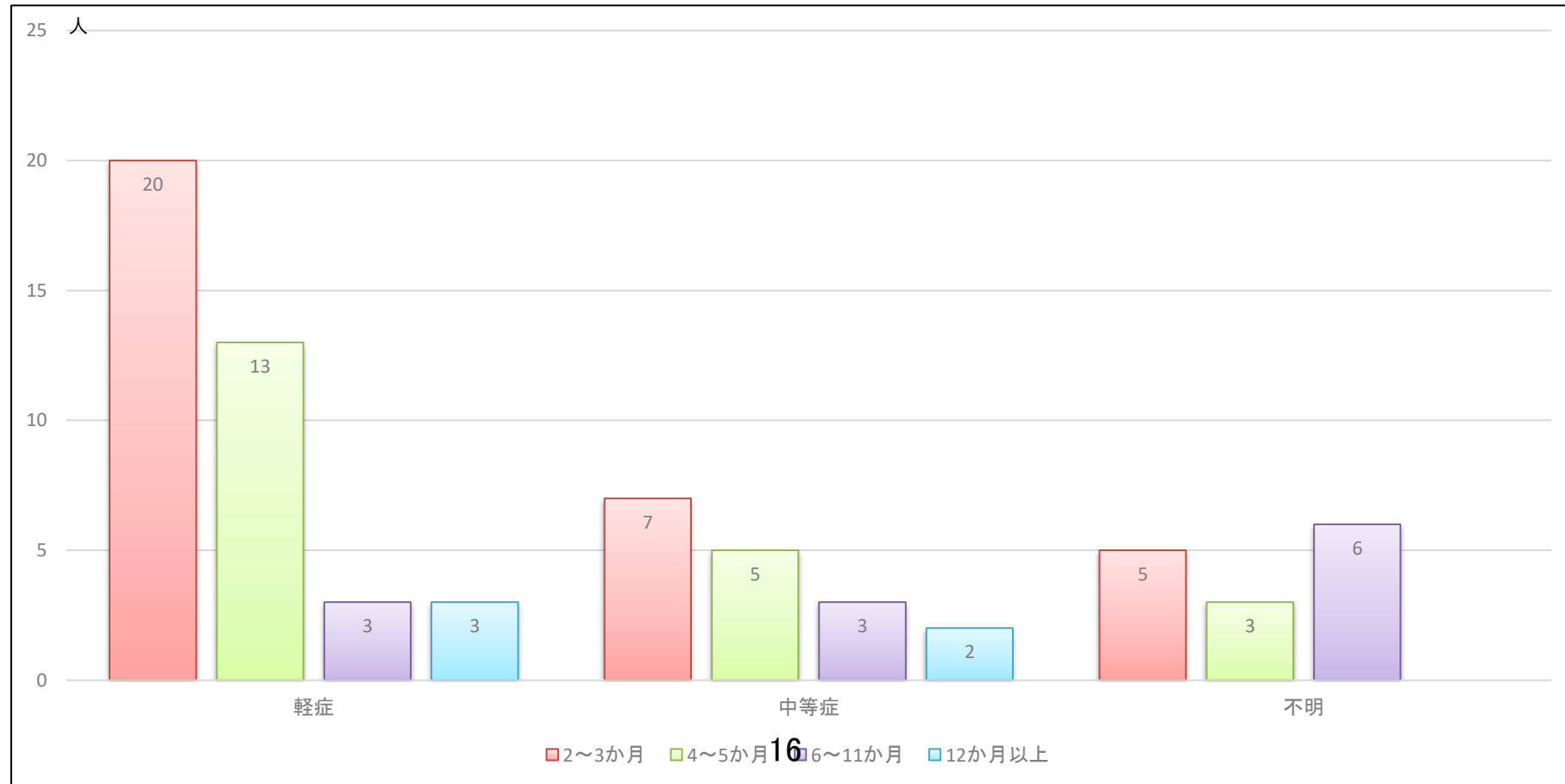
## 9 年代別の罹患後症状の継続期間について

- ・40代では2～3か月が多く、70代では4～5か月が多くなっている。
- ・10代、80代、90歳以上を除く年代群で6か月以上にわたって症状が継続する方がみられ、年齢に関わらず症状が長期化する可能性がある。



# 10 感染時の症状と症状継続期間について

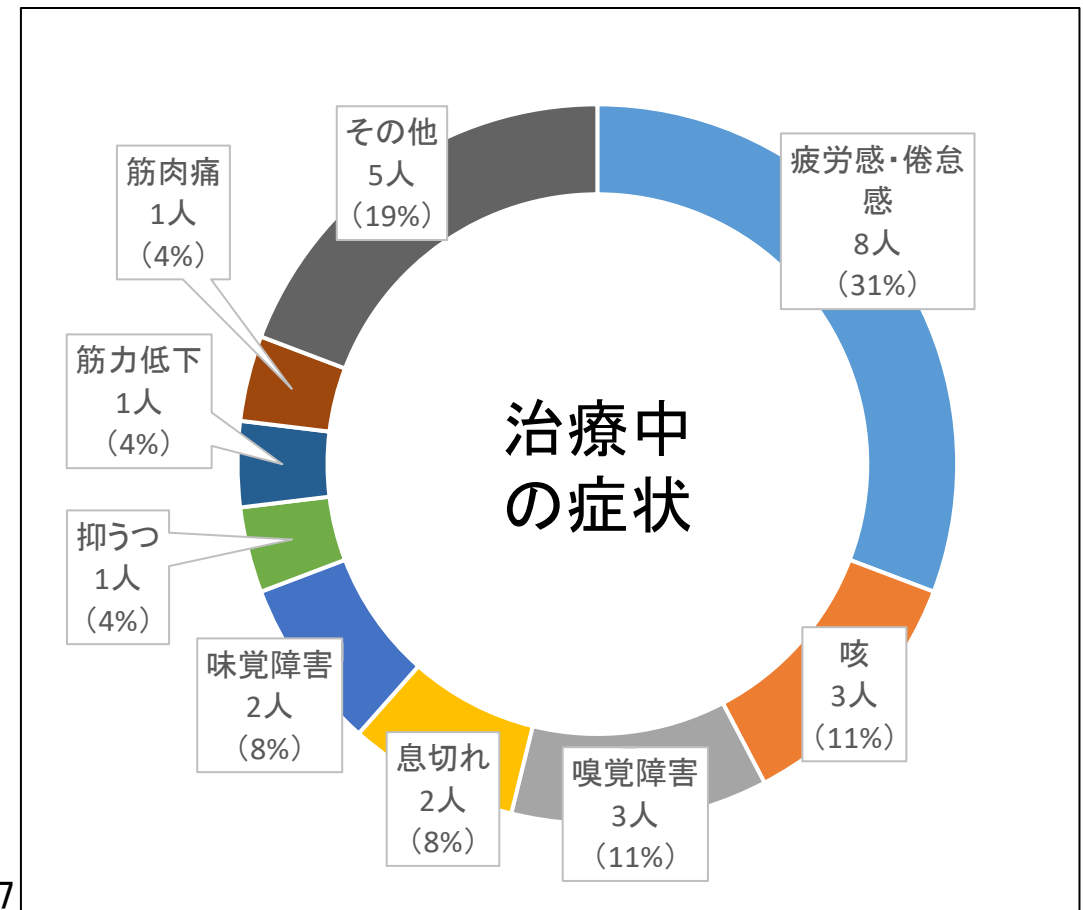
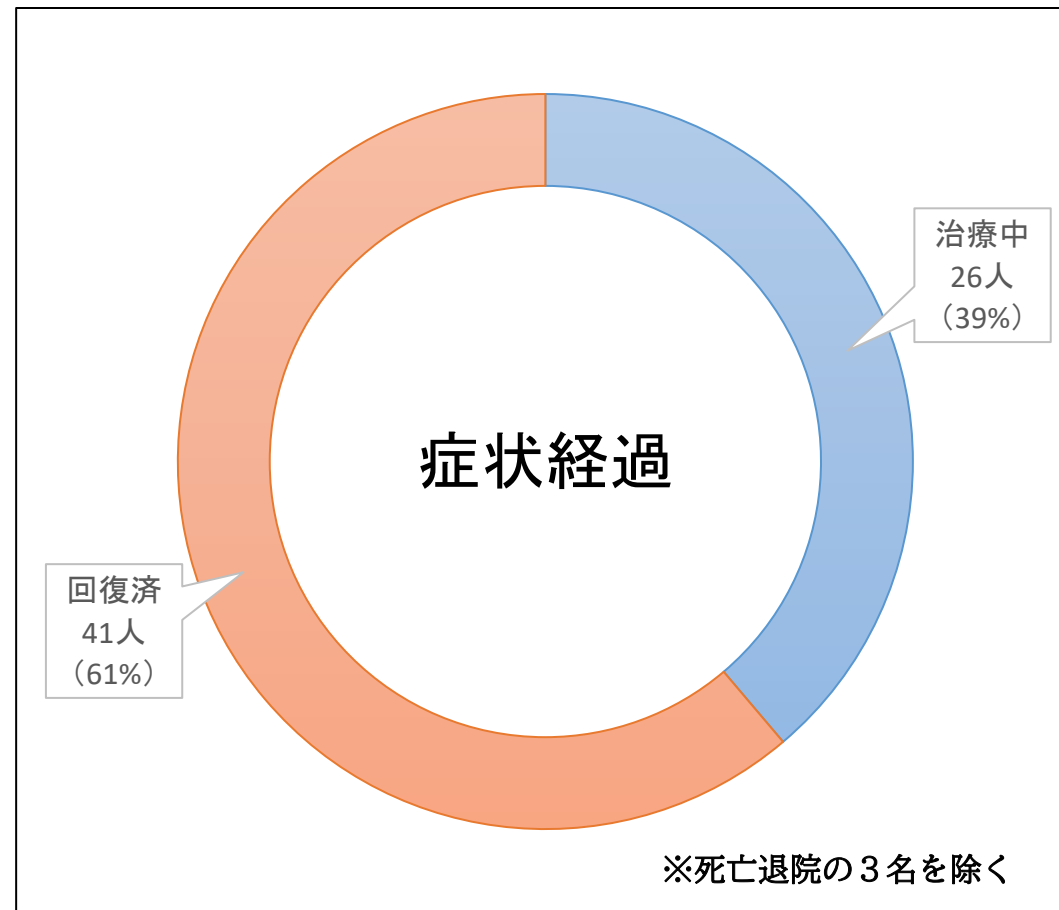
- ・感染時症状と継続期間の相関はみられない。
- ・軽症患者群の6名(15%)は6か月以上症状が継続しており、感染時症状の程度によらず罹患後症状が長引く可能性がある。





# 11 治療中の患者について(1)

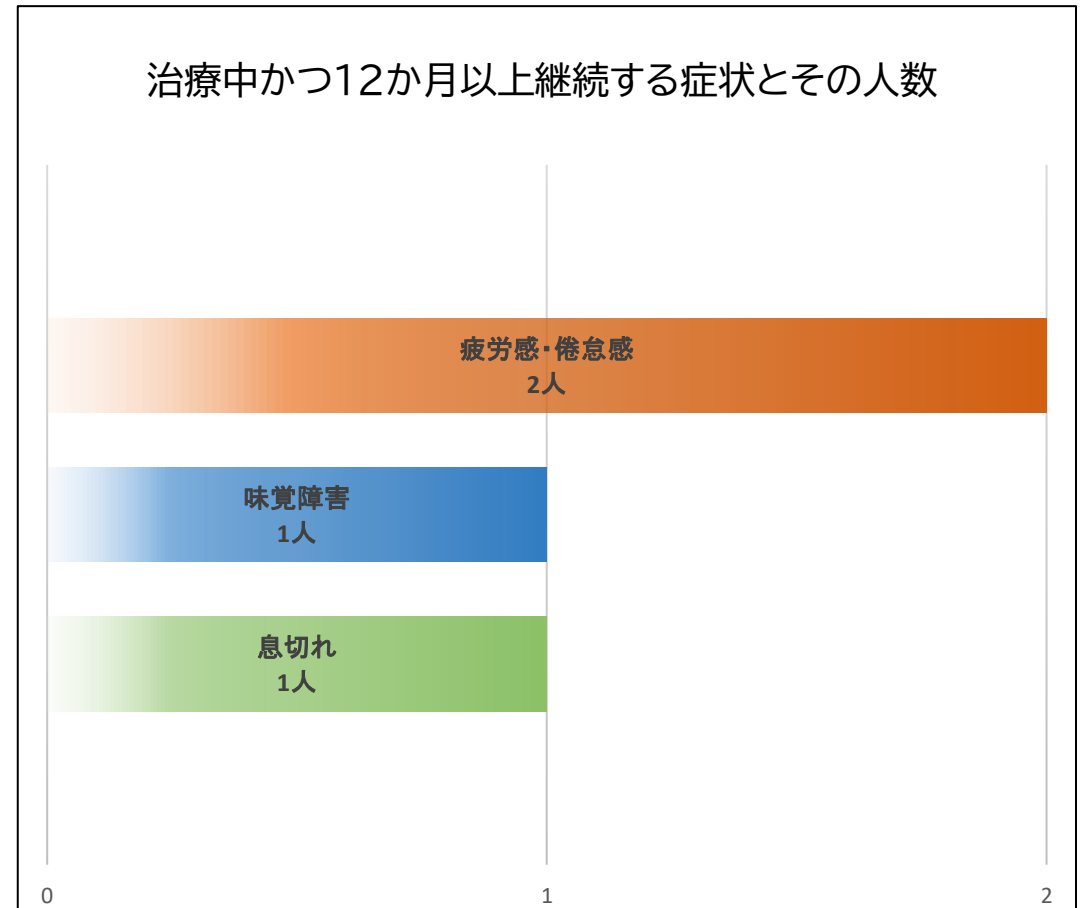
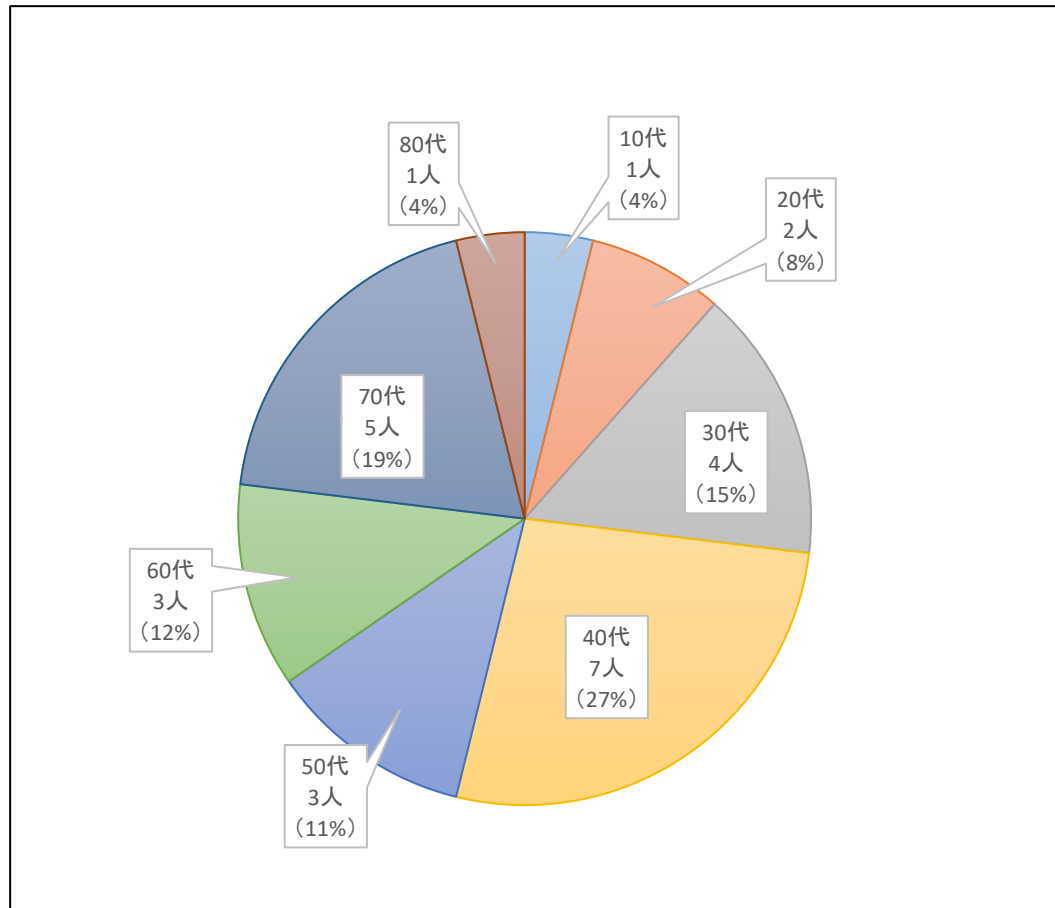
- ・現在も治療中の患者は70人のうち26人であり、39%が症状が継続している。
- ・治療中の症状では疲労感・倦怠感、咳、嗅覚障害が多くなっている。



# 11 治療中の患者について(2)

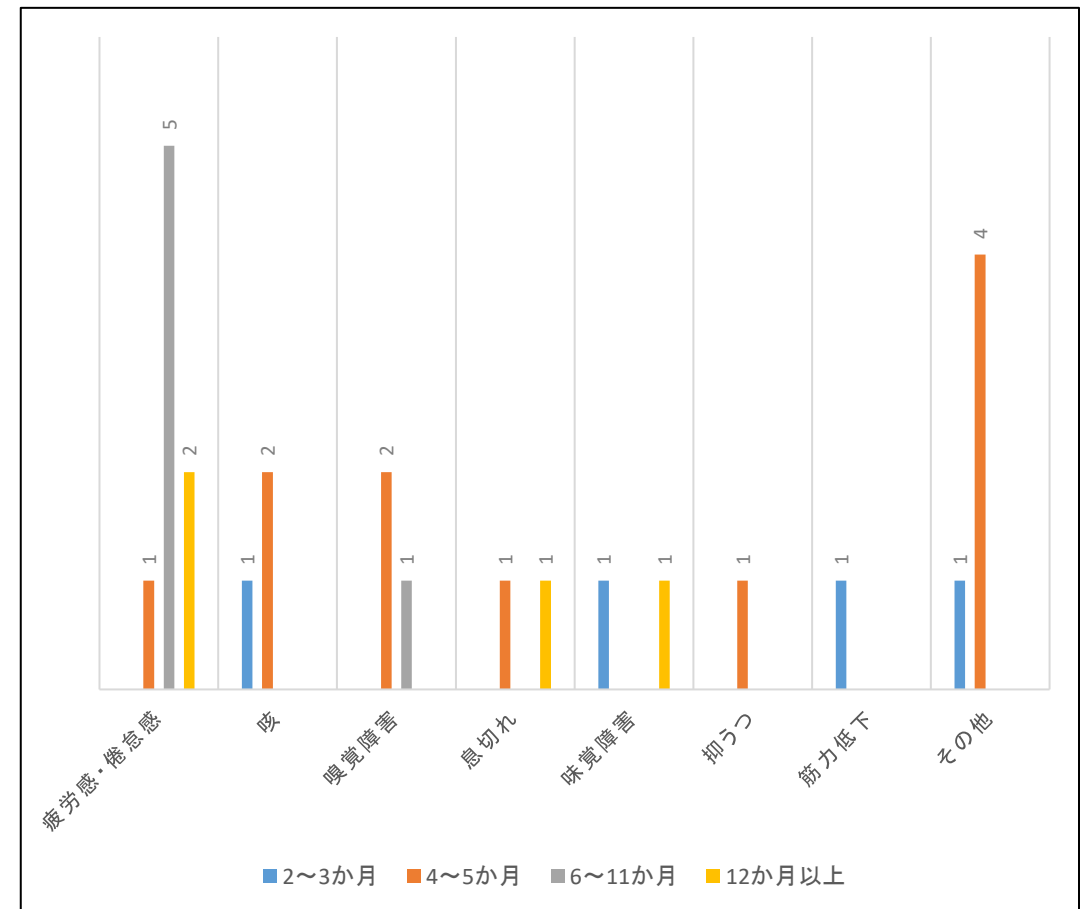
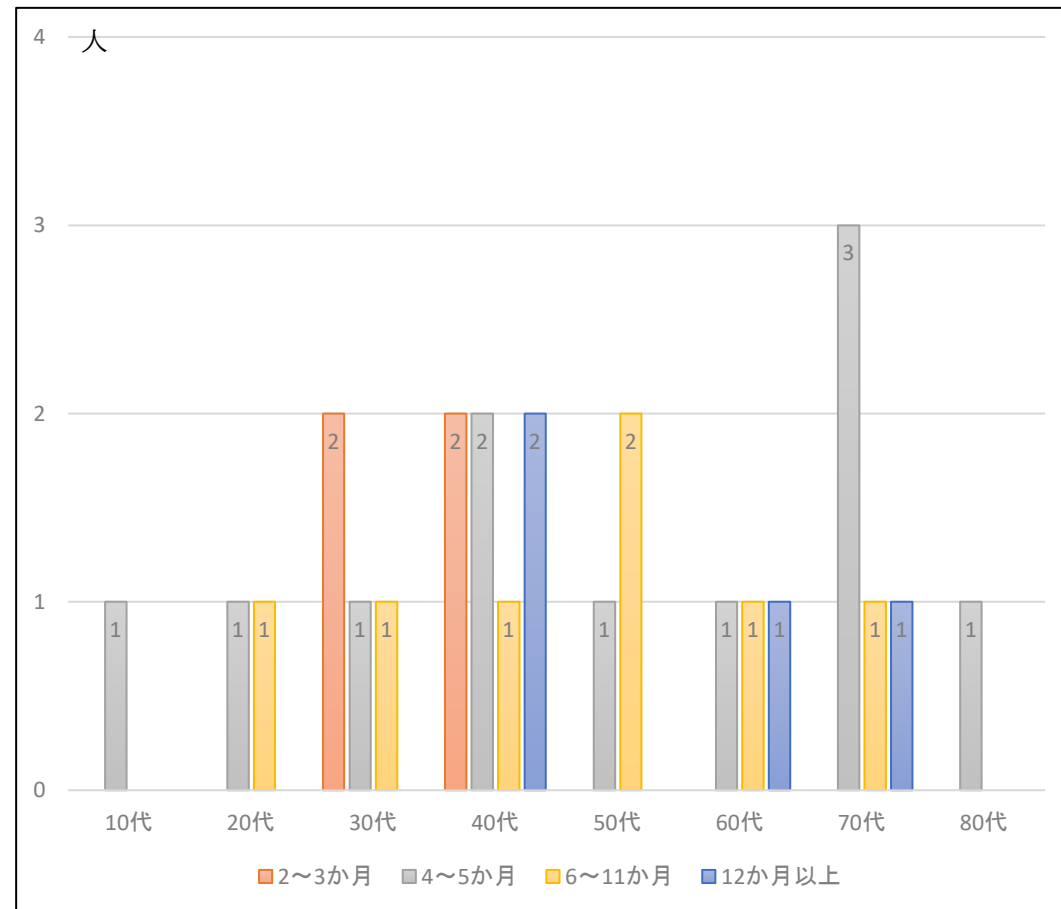
・治療中の患者の年代は40代、70代が多くなっており、いずれの年代にも治療中の患者がみられる。

また、治療中で12か月以上継続している患者は4人であり、嗅覚障害、息切れがそれぞれ1人、疲労感・倦怠感が2人であった。



# 11 治療中の患者について(3)

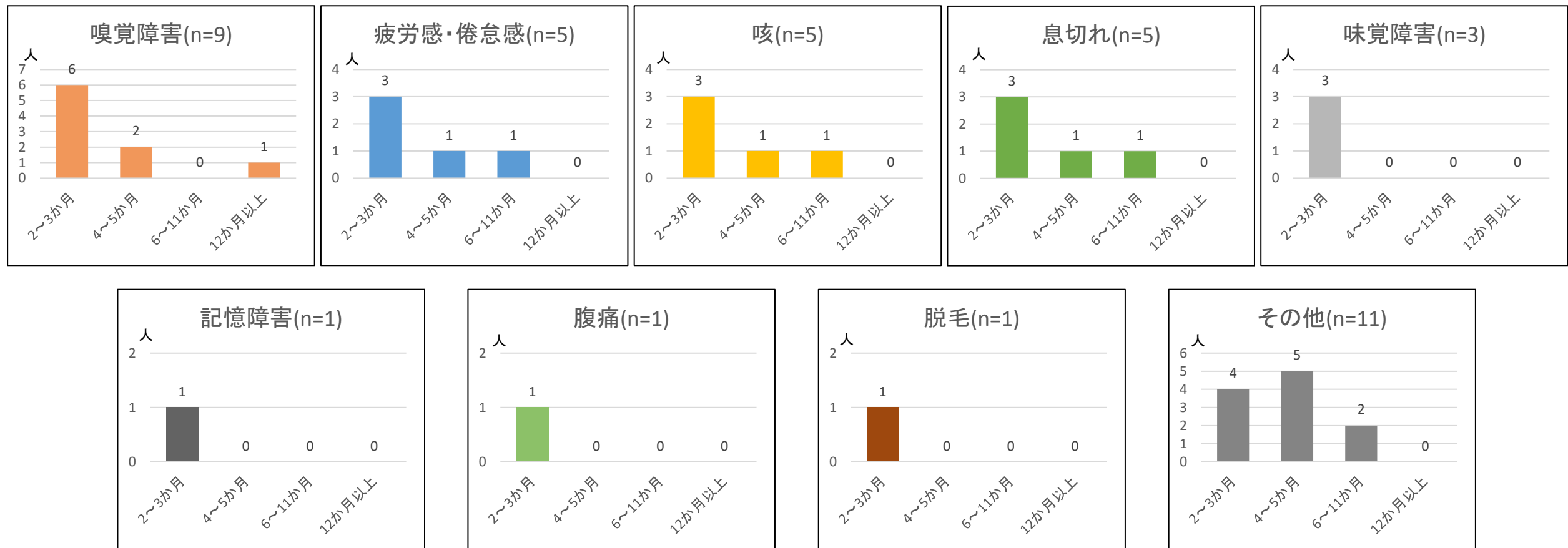
- ・治療中の患者の年代と症状の継続期間では、2～3か月症状が継続している患者は30代と40代のみであり、また12か月以上症状が継続している患者は40代以上にのみ見られた。
- ・治療中の症状別の継続期間では、疲労感・倦怠感が長期化している傾向がみられた。



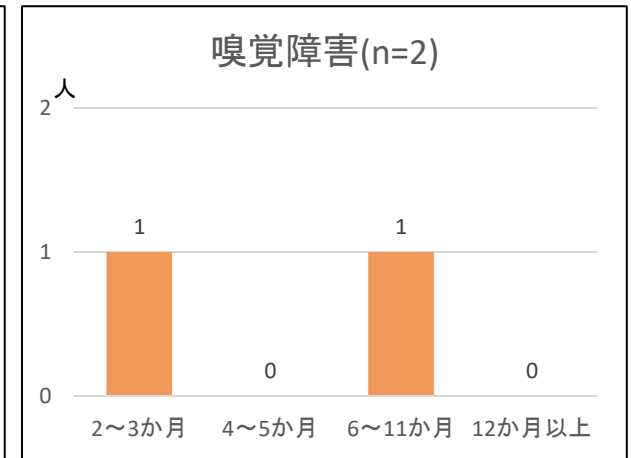
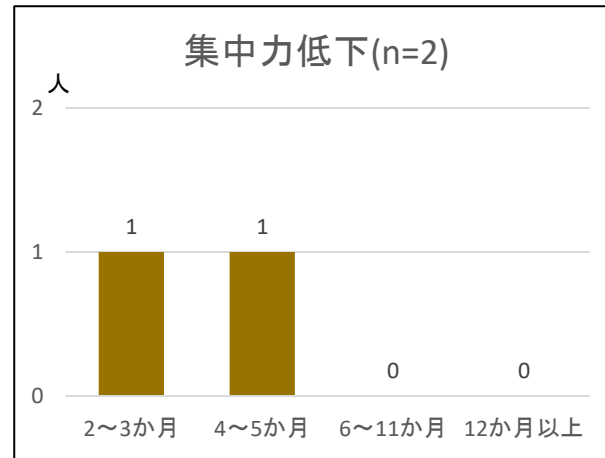
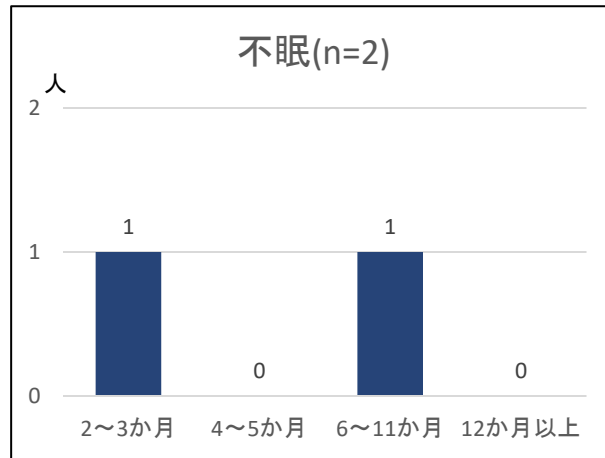
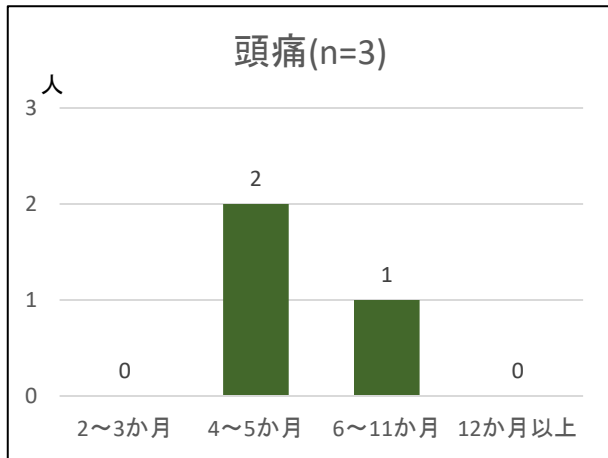
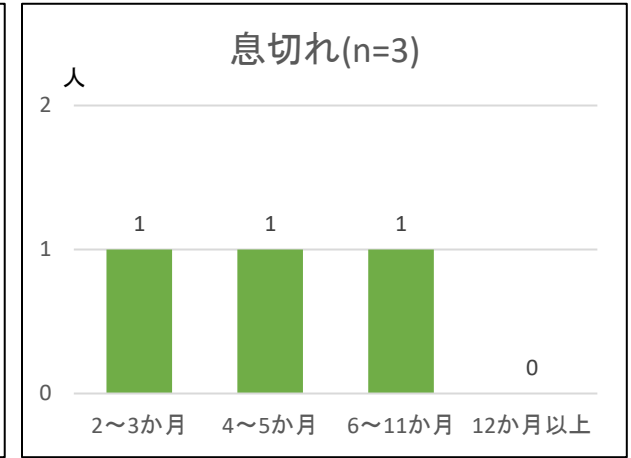
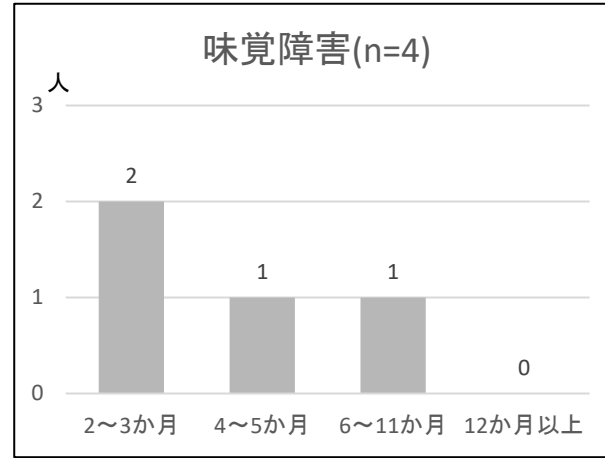
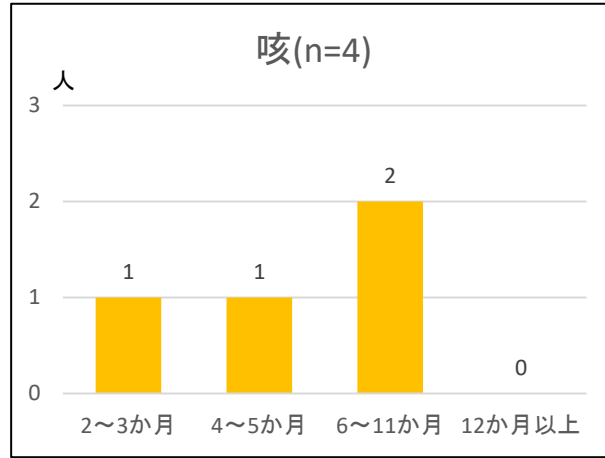
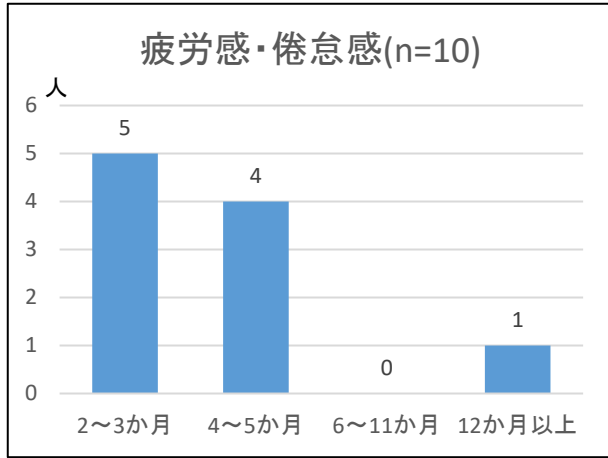
## 12 回復済みの患者について(主症状)

・すでに回復している方の主症状で最も多い症状は嗅覚障害であった。次いで、疲労感・倦怠感、咳、息切れが5人と同数であった。

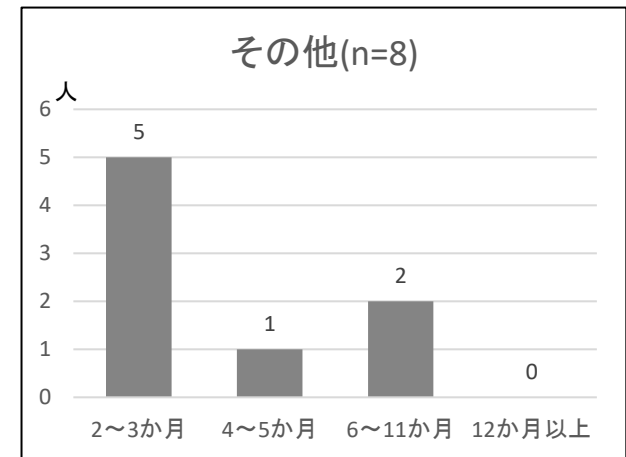
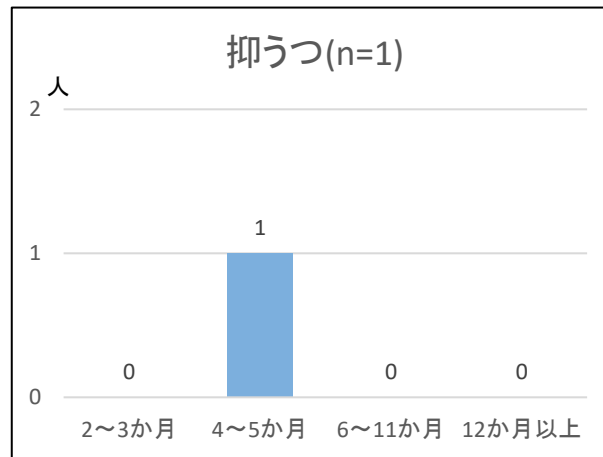
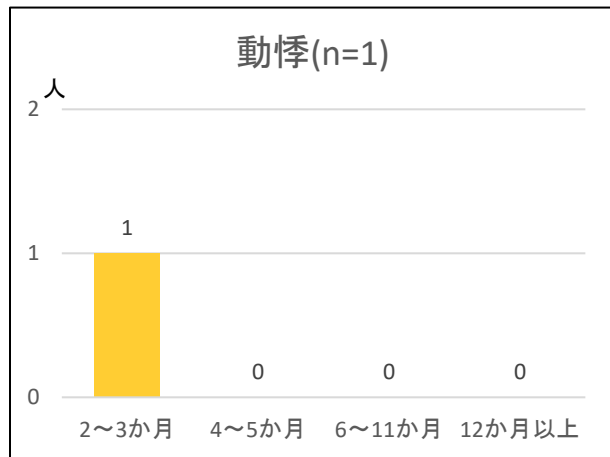
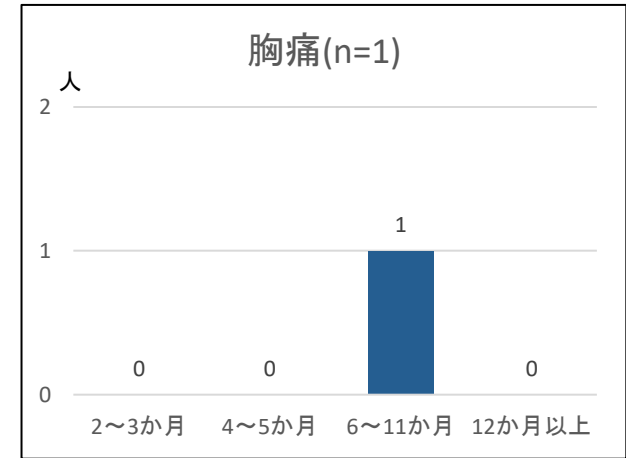
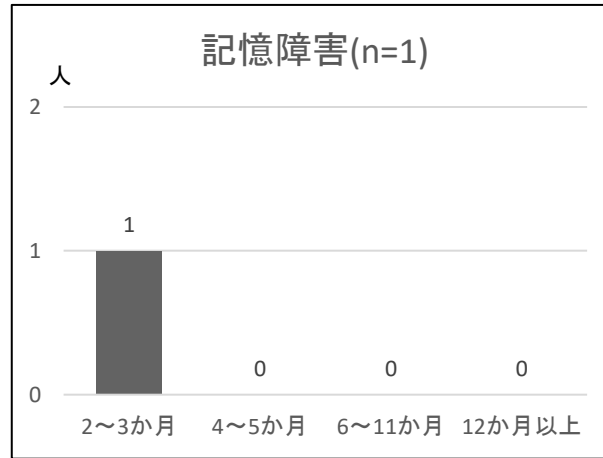
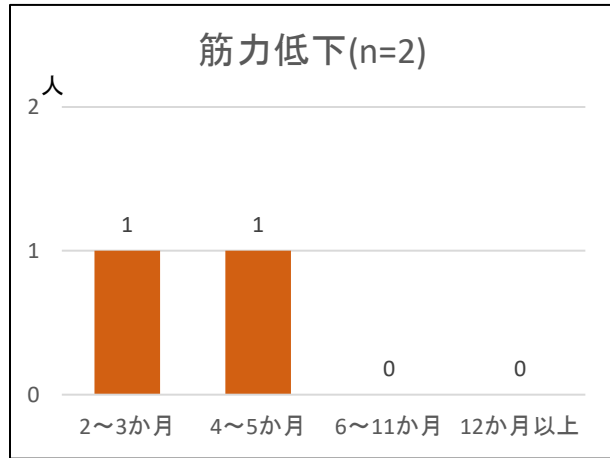
・多くが1年以内に回復しているが、嗅覚障害の1例は12か月以上症状が継続していた。



# 13 回復済みの患者について(副症状)

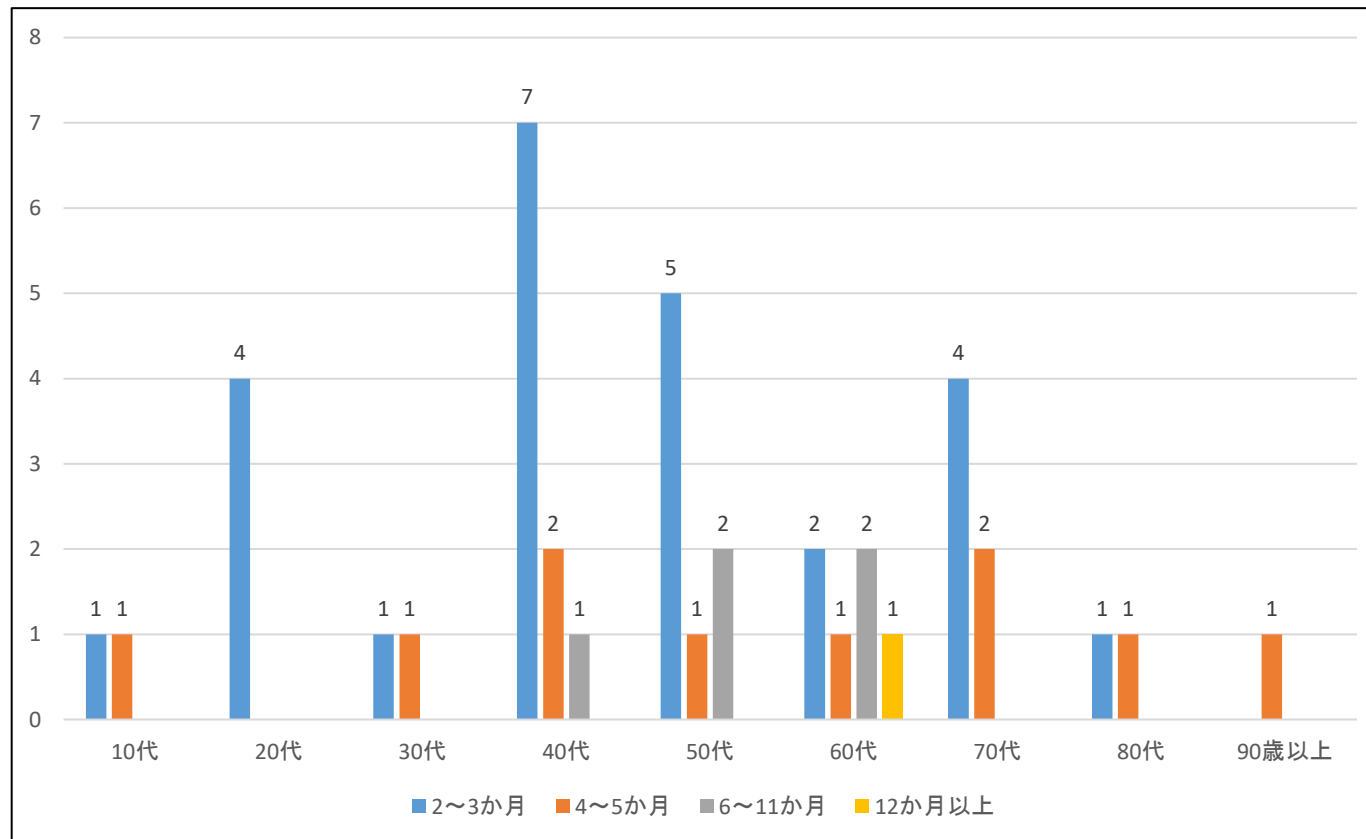


# 13 回復済みの患者について(副症状)



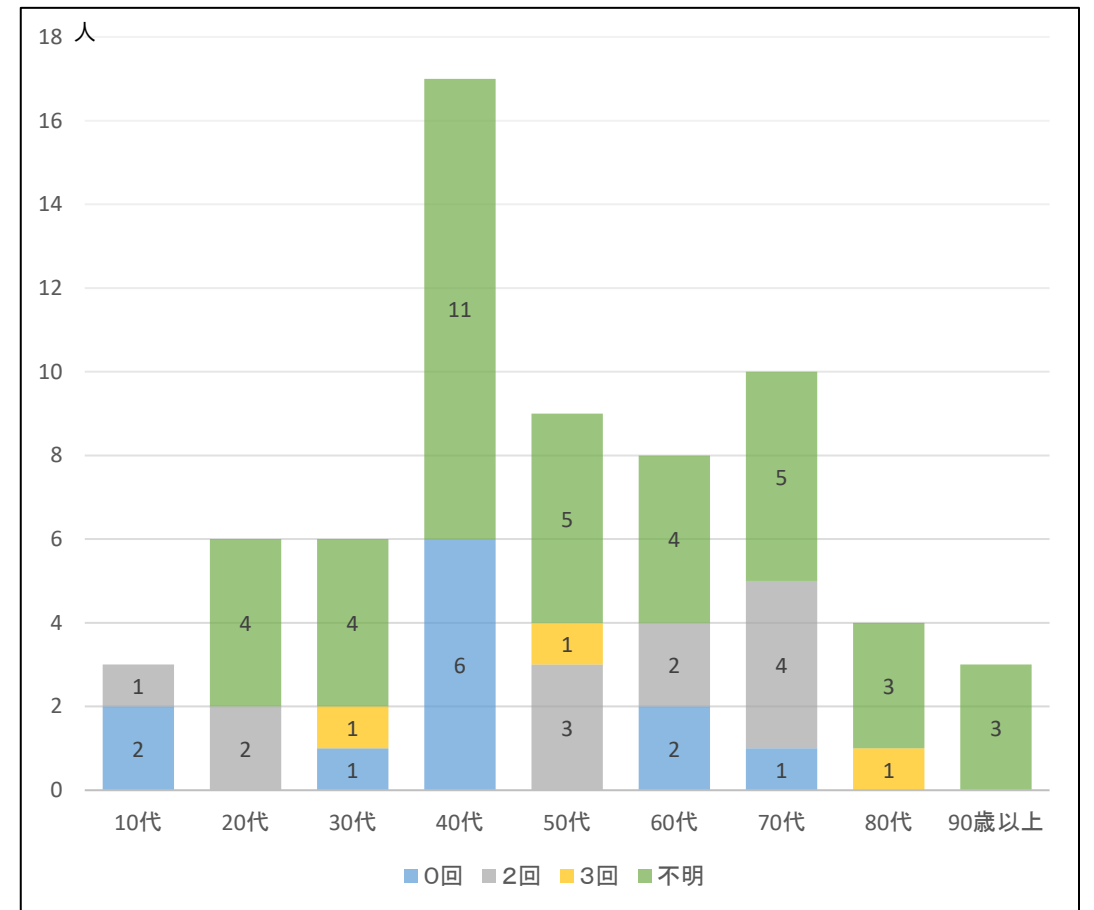
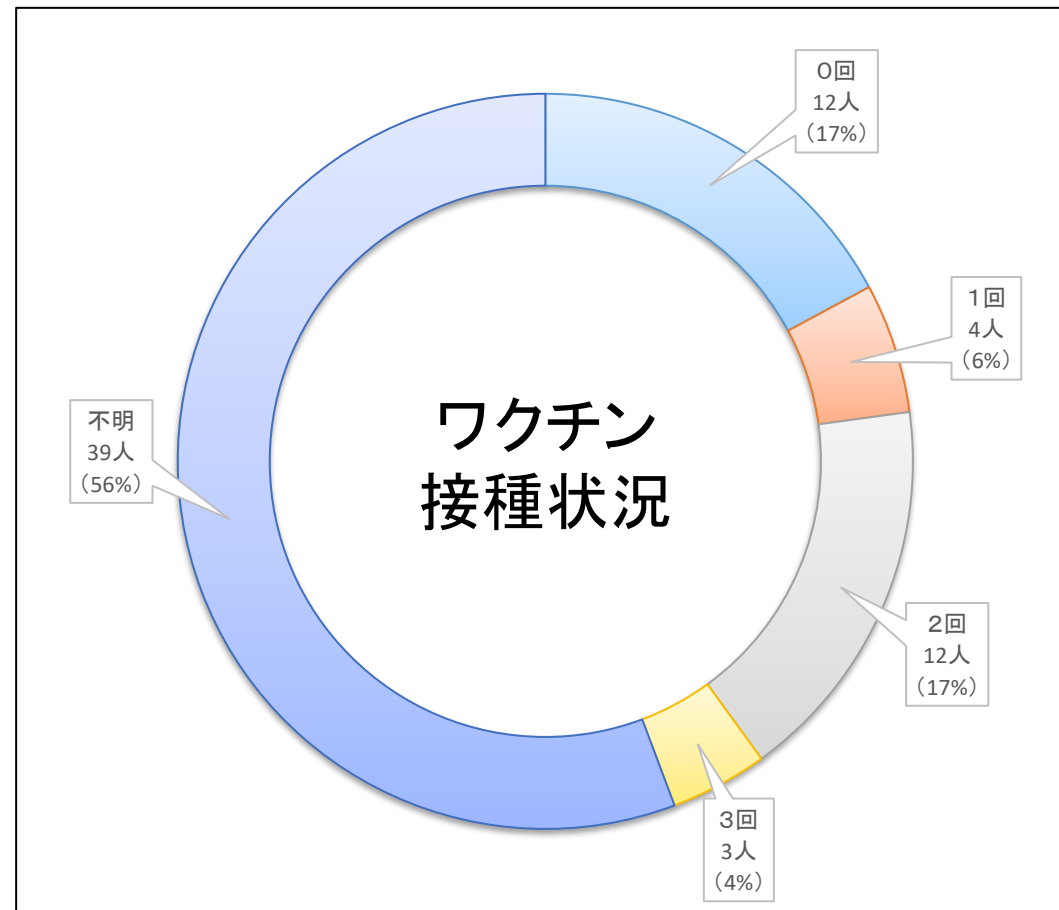
# 14 回復済みの患者について

- ・60代の患者1人は12か月以上症状が継続していた。
- ・年代に関わらず回復までの期間は短い傾向にあった。



# 15 ワクチン接種と年代について

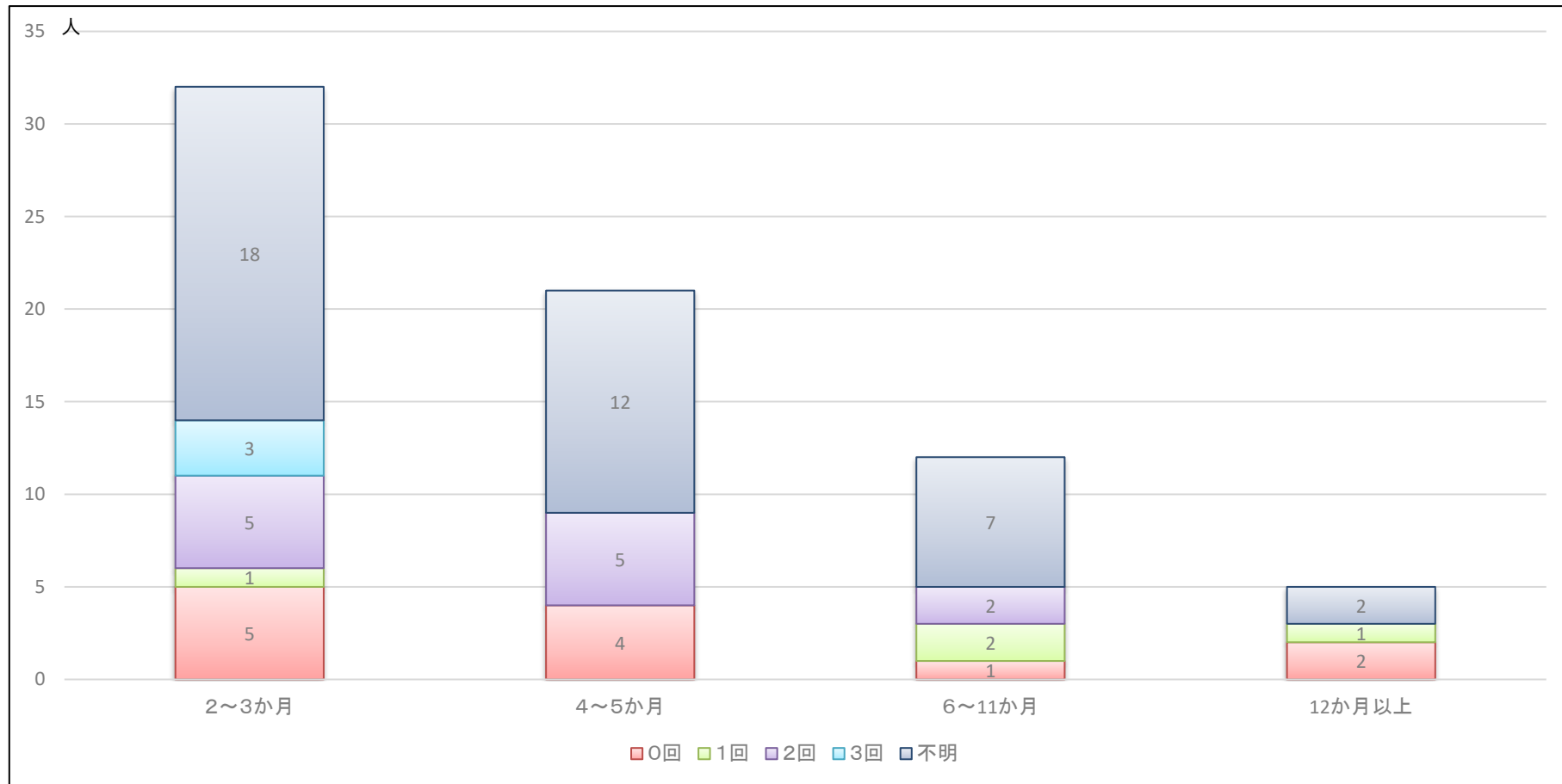
- ・ワクチン接種歴を確認できない方が56%を占めた。
- ・40代では6人(35%)がワクチン未接種であった。





# 16 ワクチン接種と症状継続期間について

- ・ワクチン3回接種を完了した方は症状継続期間が2～3か月の群に集中している。
- ・ただし、ワクチンに関する集計は接種日が不明であるため評価が困難であった。



## 調査結果について

---

- ・罹患後症状を有する患者の性別に偏りはみられない。年代別では40代から70代が約7割を占め、現役世代となる20代から50代が57%を占めている。
- ・複数の症状を有する方が全体の53%を占めており、約4割の患者が疲労感・倦怠感の症状を呈していた。
- ・新型コロナウイルス感染症罹患時の症状の程度(軽症・中等症)に関わらず、罹患後症状が発生している。性別による症状の偏りはみられない。
- ・症状の継続期間について、全体の24%が6か月以上罹患後症状が継続している。
- ・すでに回復済みの患者は多くが2~3か月で症状が改善していた。
- ・罹患後症状を有する方(ワクチン接種歴不明を除く。)のうち、39%がワクチンを接種していなかった。